

2010年度
(平成22年度)

重 点 政 策
【実績まとめ】

チャレンジふくやま 新たなる創造と飛躍

福山市

にぎわい しあわせ あふれる躍動都市 ～ばらのまち 福山～

各ページの見方

分野 柱立て

「新規」「継続」について
重点政策として、「新規」か「継続」を記入しています。

施策(事業)名		<input type="checkbox"/> 新規 ・ <input type="checkbox"/> 継続	課
計画期間	年度(平成 年度) ~ 年度(平成 年度)	決算額	千円

1 2010年度(平成22年度)に取り組んだこと

計画期間について
重点政策の内容での施策や事業の期間を記入しています。

2 成果と年度別事業費

年度別事業費について
() が付いている事業費は、過去、重点政策に計上されていなかった事業で、これまでも実施していた事業について事業費を記載しています。

(単位:千円)

	2008年度 (平成20年度)	2009年度 (平成21年度)	2010年度 (平成22年度)
事業費			

事業費は、「前年度からの繰越額」と「当年度決算額」の合計

2010年度(平成22年度)重点政策一覧(目次)

(単位:千円)

分野	柱立て	施策(事業)名	決算額	再掲分	再掲分を含む事業費	ページ
1 教育	学校教育の充実	少人数指導推進支援	112,978		112,978	1
		特別支援教育体制推進事業	84,320		84,320	2
	高等教育の充実	四年制大学の設置	3,369,553		3,369,553	3
	文化財の保護と活用	轄地区町並み保存	11,704		11,704	4
	国際交流の推進	北京市教育交流推進事業	2,136		2,136	5
	青少年活動の推進	子ども市政参画事業	153		153	6
	小計		6件	3,580,844		
2 環境	地球環境の保全	温暖化対策事業(スクラムふくやま☆エコトライ 2nd)	47,759	157,234	204,993	7
		太陽エネルギー導入推進事業	148,430		148,430	9
		河川等浄化対策事業	175,375		175,375	10
		自転車利用の促進	6,749	227,811	234,560	11
	耕作放棄地の再生・活用	耕作放棄地再生活用モデル地区支援事業	9,106		9,106	12
小計		5件	387,419			
3 協働	市民の自立と参画	ばらのまちづくり推進事業	6,727		6,727	13
		協働のまちづくり推進事業	1,209		1,209	14
		地域ポイント制度(まちづくりパスポート事業)	1,609		1,609	15
小計		3件	9,545			
4 行革	行財政改革の推進	行財政改革の推進	—		—	16
	小計		1件	—		
5 活力	轄地区の再生・活性化	轄地区町並み保存(※再掲)		11,704	11,704	17
		轄地区道路港湾整備事業	—		—	18
		轄地区まちづくりの推進	—		—	19
	中心市街地の整備	福山駅周辺整備事業	3,188,826		3,188,826	20
	都市ブランドの創出と発信	「福山らしさ」創出事業	81,803		81,803	21
	先端企業の誘致(産業の振興)	ものづくり等人材育成事業	3,719		3,719	23
	少子化対策の推進	赤ちゃん訪問事業	12,807		12,807	24
		保育所等における子育て支援事業の充実	129,418		129,418	25
	保育所・幼稚園の再整備	保育所再整備	676,026		676,026	26
	公共交通サービスの充実	生活バス交通利用促進対策事業	72,603		72,603	27
	幹線道路網及び港湾の整備促進	広域交通体系の整備と物流機能の強化	536,215		536,215	28
	地産地消の推進	地産地消推進運動	9,158	9,497	18,655	29
	農業施策の推進	農業基盤整備事業	51,935		51,935	31
		耕作放棄地再生活用モデル地区支援事業(※再掲)		9,106	9,106	32
小計		12件	4,762,510			
6 福祉	高齢者福祉の充実	高齢者おでかけ支援事業	9,948		9,948	33
	子どもの発達支援の充実	(仮称)こども発達支援センターの整備	272		272	34
		障がい児通園施設利用者負担軽減事業	4,919		4,919	35
		特別支援教育体制推進事業(※再掲)		84,320	84,320	36

(単位:千円)

分野	柱立て	施策(事業)名	事業費	再掲分	再掲分を含む事業費	ページ
6 福祉	市民の健康づくり	「食育」の推進	1,035		1,035	37
	小計	4件	16,174			
7 安心・安全	地域医療体制の充実	病院施設整備事業	330,536		330,536	38
		(仮称)救急支援診療所整備事業	—		—	39
	消防・救急体制の充実	消防・救急体制の整備	472,613		472,613	40
	災害に強いまちづくり	水道施設の耐震化事業	232,038		232,038	41
		小・中学校の耐震補強等整備事業	1,313,265		1,313,265	42
		災害時要援護者の避難支援対策	1,006		1,006	43
	安心・安全な給水の確保	水道未普及地域解消事業	66,908		66,908	44
		出原浄水場更新事業	107,634		107,634	45
	市民の安全対策	子どもと地域の安心安全対策推進事業	4,413		4,413	46
		交通安全対策推進事業	2,355		2,355	47
		歩道整備事業	225,756		225,756	48
		交通施設バリアフリー設備整備費補助等事業	189,979		189,979	49
	住宅の整備	深津市営住宅整備事業	246,705		246,705	50
	人権の尊重	人として大切にされる社会の実現	2,463		2,463	51
	小計	14件	3,195,671			
	合計	45件	11,952,163			

施策（事業）名	少人数指導推進支援	□ 新規 ・ ■ 継続
計画期間	2006年度(平成18年度)～2010年度(平成22年度)	決算額 112,978千円

1 2010年度（平成22年度）に取り組んだこと

基礎・基本と学ぶ意欲などの確かな学力を育み、自ら学び、自ら考える姿勢が育つよう、指導形態を工夫し、個に応じた指導を推進しました。

○少人数指導推進校の指定

小学校 30校 中学校 19校 計 49校

○少人数指導推進員研修

- 第1回 5月28日 事業の趣旨説明
- 第2回 8月20日 実践交流 指導の充実
- 第3回 3月4日 少人数指導の成果と課題



【少人数指導の様子】

○少人数指導推進に関する研究

（研究内容）基礎学力定着を図る効果的な少人数指導方法の研究

- ・ 学級人数を半分程度に分けて指導
- ・ 支援を要する児童生徒を少人数で指導
- ・ 1学級を複数の教員で指導（チーム・ティーチング）など

（教科） 小学校：算数，国語
中学校：数学，英語，国語

2 成果と年度別事業費

○少人数指導による授業について、各校でアンケートや学習態度の観察により児童生徒の状況を把握したところ、肯定的評価は83%でした。児童生徒は少人数指導による授業によって、学習意欲や関心が高まることがわかりました。

（単位：千円）

	2008年度 (平成20年度)	2009年度 (平成21年度)	2010年度 (平成22年度)
事業費	114,645	114,584	112,978

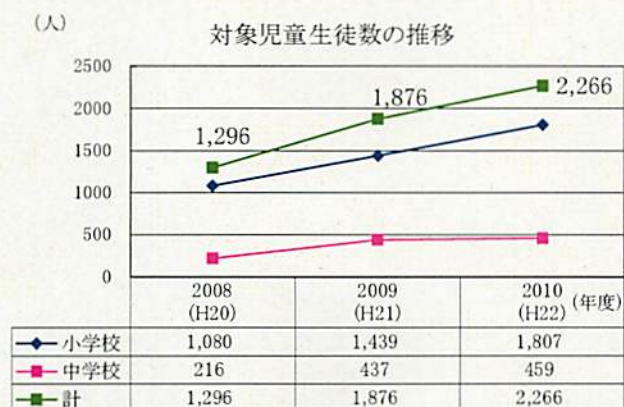
事業費は、「前年度からの繰越額」と「当年度決算額」の合計

施策（事業）名	特別支援教育体制推進事業	□ 新規 ・ ■ 継続
計画期間	2006年度(平成18年度)～2011年度(平成23年度)	決算額 84,320千円

1 2010年度(平成22年度)に取り組んだこと

○学校支援員の配置

通常学級において発達障がいのある児童生徒に対して指導や支援が必要であると教育委員会が認める学校（特別支援教育体制推進重点校）に「学校支援員・学習補助員」を配置しました。



※2010年度(平成22年度)はうち学習補助員が小学校10人、中学校3人、計13人

○巡回相談の実施

発達障がいなどの専門家による巡回相談を実施し、教職員の発達障がいに対する理解を深め、児童生徒に応じた指導の充実と学校体制での特別支援教育を推進しました。

	2008年度(平成20年度)	2009年度(平成21年度)	2010年度(平成22年度)
個別の教育支援計画作成校	67校	73校	84校
巡回相談事業実施延件数	90件	114件	115件

○サポーター事業の実施

大学生がサポーターとなって担任などの指示により、補助的な支援を行いました。

	2008年度(平成20年度)	2009年度(平成21年度)	2010年度(平成22年度)
学生サポーターの配置	小学校5校	小学校4校	小学校3校

2 成果と年度別事業費

○個別にかかわることで、児童生徒の心の安定が図られ、落ち着いて学校生活を送ることができるようになりました。

○巡回相談を活用した校内研修を実施することで、発達障がいの理解を深めることができました。

(単位：千円)

	2008年度 (平成20年度)	2009年度 (平成21年度)	2010年度 (平成22年度)
事業費	55,416	64,867	84,320

事業費は、「前年度からの繰越額」と「当年度決算額」の合計

施策（事業）名	四年制大学の設置	<input type="checkbox"/> 新規 ・ <input checked="" type="checkbox"/> 継続
計画期間	2006年度(平成18年度)～2011年度(平成23年度)	決算額 3,369,553千円

1 2010年度（平成22年度）に取り組んだこと

2011年（平成23年）4月の四年制大学の開学に向けて、設置認可申請書の補正対応や教職課程認定申請、学生募集などの広報活動、校舎建設工事、初度設備・図書等の調達を行いました。



【福山市立大学校舎】



【大講義室】



【大学説明会】

2 成果と年度別事業費

- 9月 大学設置条例の制定
- 10月 大学設置認可
- 12月 入学試験（推薦，社会人，私費外国人留学生）の実施
- 2,3月 入学試験（一般）の実施 ※一般入試志願倍率 前期 6.9倍，後期 30.5倍

（単位：千円）

	2008年度 (平成20年度)	2009年度 (平成21年度)	2010年度 (平成22年度)
事業費	36,223	1,387,133	3,369,553

事業費は、「前年度からの繰越額」と「当年度決算額」の合計

施策（事業）名	鞆地区町並み保存	□ 新規 ・ ■ 継続
計画期間	2007 年度(平成 19 年度)～	決算額 11,704 千円

1 2010年度（平成22年度）に取り組んだこと

○町並み保存事業補助

歴史の息づく町並み保存地区内の建造物などの修理・修景事業に対して、補助金の交付を行い、歴史的景観の整備を進めました。

- ・補助件数 4 件（修理事業 1 件、応急処置 2 件、修景事業 1 件）

数値目標：補助件数 6 件



【修理前…建物が傾き、屋根瓦が落下】



【修理後…屋根瓦など全体をきれいに修理】

○町並み保存推進費

町並み保存を推進するため、鞆の伝統的建造物に詳しい大学教授など専門家へ相談しながら国の重要伝統的建造物群保存地区の選定に向けて取り組みました。

○補完調査の実施

重要伝統的建造物群保存地区の選定に向け、鞆地区の町並みの価値をより明らかにするため、社寺建築調査、都市史調査、景観調査など補完調査を実施しました。

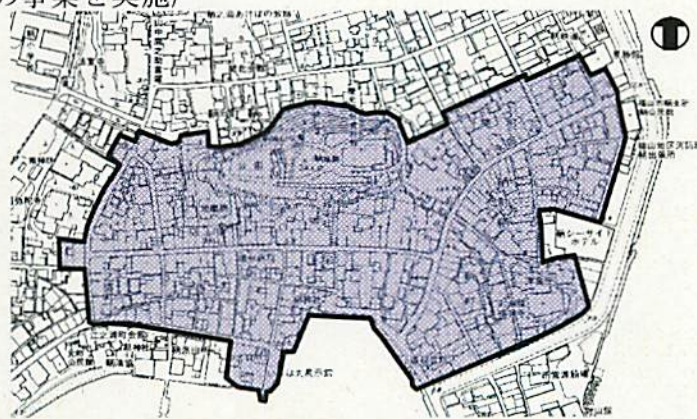
2 成果と年度別事業費

○市単独の補助事業により、貴重な文化財である鞆の町並みを守っています。

（2010 年度（平成 22 年度）までに 46 件の事業を実施）



【鞆の町並み】



【鞆町伝統的建造物群保存地区】

（単位：千円）

	2008年度 (平成20年度)	2009年度 (平成21年度)	2010年度 (平成22年度)
事業費	1,992	9,355	11,704

事業費は、「前年度からの繰越額」と「当年度決算額」の合計

施策（事業）名	北京市教育交流推進事業	□ 新規 ・ ■ 継続
計画期間	2008年度(平成20年度)～2012年度(平成24年度)	決算額 2,136千円

1 2010年度（平成22年度）に取り組んだこと

2010年（平成22年）12月23日～27日の日程で、北京市の海淀実験中学校と首都師範大学附属第二中学校を訪問しました。（訪問団：中高生20人、教職員10人、事務局員5人）

○All Englishによる授業を体験



すべて英語を使った授業に圧倒されましたが、改めて語学力の大切さを感じました。

○福山の伝統文化を紹介



福山の特産品「琴」の説明をしました。美しい音を聴いてもらえなくて、少し残念でしたが、身を乗り出して話を聞く生徒もいました。

○世界遺産、本物を体験



万里の長城では、こんなにも大きくてしかもこんなに長い建物を築き上げた昔の人の知恵に感激しました。

○国境を越えた仲間



海の向こうでは、同世代の仲間が頑張っています。国と国との間で問題が生じていても、人と人との交流は絶対可能だと強く思いました。この交流を通して北京の生徒とも国境を越えた「絆」を結ぶことができました。

2 成果と年度別事業費

○生徒は自分自身を見つめ直し、自己変革へとつながるきっかけとなりました。教職員は、自らの指導姿勢を振り返るとともに、取り組むべき課題や方向性を考える機会となりました。

○自校や公民館などを利用して報告会を実施し、学んできたことを還元する場を設けることができました。

（単位：千円）

	2008年度 (平成20年度)	2009年度 (平成21年度)	2010年度 (平成22年度)
事業費	6,224	2,449	2,136

事業費は、「前年度からの繰越額」と「当年度決算額」の合計

施策（事業）名	子ども市政参画事業	■ 新規 ・ □ 継続
計画期間	2009 年度(平成 21 年度)～	決算額 153 千円

1 2010年度（平成22年度）に取り組んだこと

○子ども議会開催事業

次代を担う子どもたちから福山市の将来像や地域課題などに対する意見や提案を聴き、実現可能なものについては事業化に向け、取り組みました。



【子ども議員認定書交付式】

・議員数 47 人
(小学校 5 年生～中学校 3 年生までの児童生徒)



【ばらのまちづくりの視察】



【子ども議会(本会議場)】



【宿泊研修(ふれ愛ランド)】



【事前学習会】

○まちづくりパスポートニュースの発行（※再掲）

福山市子ども議会議員への応募を地域ポイント制度（まちづくりパスポート事業）の対象活動としました。福山市子ども議会議員の参加報告を「まちパスニュース」へ掲載しました。

2 成果と年度別事業費

○子ども議員の提案を受け市政に反映されたもの（〈 〉内は実施（予定）時期）

- ・二上りおどりの保存継承DVDの作成，配布〈2010年（平成22年）3月〉
- ・ふくやま地産地消の日の制定(毎月29日「ふくの日」)〈2011年（平成23年）4月から〉
- ・お薦め本リストの作成〈2011年（平成23年）7月〉
- ・市ゆかりの人物の漫画本の制作〈2012年度（平成24年度）「阿部正弘」出版予定〉

(単位：千円)

	2008年度 (平成20年度)	2009年度 (平成21年度)	2010年度 (平成22年度)
事業費	-	20	153

事業費は、「前年度からの繰越額」と「当年度決算額」の合計

分野：環境 柱立て：地球環境の保全

経済環境局環境部環境総務課 環境保全課 環境啓発課 保健福祉局保健部健康推進課
市民局まちづくり推進部協働のまちづくり課 建設局都市部都市交通課 公園緑地課

施策(事業)名	温暖化対策事業 (スクラムふくやま☆エコライ 2nd)	□ 新規 ・ ■ 継続
計画期間	2009年度(平成21年度)～2010年度(平成22年度)	決算額 204,993千円 (再掲分 157,234千円含む)

1 2010年度(平成22年度)に取り組んだこと

協働をベースに「家庭・地域・学校」や「事業者」「行政」がスクラムを組んで、身近に取り組める環境活動を通じて二酸化炭素(CO₂)排出量の削減に取り組みました。

○家庭、学校、事業者・団体における主な取組

・ふくやまエコファミリー認定制度

電気、ガス、水道等の使用量削減など温暖化防止に努める世帯を「ふくやまエコファミリー」として認定しました。

認定世帯数 1,626世帯



ECOスクール
FUKUYAMA CITY 2010

・ふくやまECOスクール認定制度

節電や節水、ごみの減量などに取り組む保育所や学校を「ふくやまECOスクール」として認定しました。

7施設：みどり保育園(神辺町)、大門保育所、駅家東保育所、千田保育所、千田西保育所、旭丘小学校、川口東小学校

【ふくやまエコファミリー パンフレット】

【ふくやまECOスクールロゴマーク】

○行政の主な取組

・公共施設への太陽光発電設備の設置

5施設：福山市立大学、ごみ固形燃料工場、

服部南保育所、津之郷公民館、芦品消防署



【ごみ固形燃料工場の太陽光発電設備】



○事業者・団体への支援

・ふくやまエコ企業認定制度

温室効果ガスの排出削減などに取り組む事業者を認定しました。

(12事業所認定)

【ふくやまエコ企業認定マーク】

2 成果と年度別事業費

15,028トンの二酸化炭素の排出量を削減しました。

(単位：千円)

	2008年度 (平成20年度)	2009年度 (平成21年度)	2010年度 (平成22年度)
事業費	-	77,718 (※再掲分57,098千円含む)	204,993 (※再掲分157,234千円含む)

事業費は、「前年度からの繰越額」と「当年度決算額」の合計



家庭・地域・学校における取組
3,308 t削減

- ふくやまエコファミリー認定制度 1,626 世帯
- エコでえ〜ことキャンペーン
レジ袋 約 149.5 万枚
割りばし 5,877 膳 削減
- 一斉清掃への参加
合計 21,300 人
- ECO スクール 7 施設
- 環境学習モデル事業 12 校
- カーボン・オフセット啓発
福山ばら祭ほか
- 太陽光発電の設置
1,832 基 (※再掲)
- 自転車利用の促進



【エコでえ〜ことキャンペーン】

協働

関連事業との連携 9,615 t削減

- ベスト運動の推進(会員数 16,900 人)や公共交通(まわローズなど)の利用促進による交通渋滞の緩和



【まわローズ】

CO₂
15,028トン
削減

(目標値: 15,000 トン)

主な取組例

- ・レジ袋 1 枚削減で 48g 削減
- ・木を 1 本植えたら 3kg 削減
- ・ベスト運動 1 回参加して 56kg 削減

行政の取組 1,347 t削減

- ISO14001 の推進
- 温暖化実行計画(庁舎)
- 公共施設への太陽光発電設置
- 太陽光発電設置費補助(※再掲)
- 緑化推進のための樹木配布
年間 6,731 本
- 自転車利用の促進(職員によるエコ通勤, 公用自転車の利用促進)
- 自転車利用しやすい空間整備
- レンタサイクル利用の促進



【ECO スクール】

事業者・団体への支援
758 t削減

- ISO14001・エコアクション 21 取得費補助 14 件
- ふくやまエコ企業認定制度 12 事業所

スクラムふくやま★エコトライ 2nd

施策（事業）名	太陽エネルギー導入推進事業	□ 新規 ・ ■ 継続
計画期間	2000年度(平成12年度)～	決算額 148,430千円

1 2010年度(平成22年度)に取り組んだこと

- 住宅用太陽光発電システム設置費補助事業
住宅用太陽光発電システムを設置した者に設置費の一部を補助しました。 ・件数 1,686件
- 住宅用太陽光発電システム(モデル地区)設置費補助事業
モデル地区(5戸以上がまとまって申請した場合に認定)における住宅用太陽光発電システムの設置者に対し、設置費の一部を補助しました。
・モデル地区 4地区(南松永町, 津之郷町, 赤坂町, 神村町), 23件
- 住宅用太陽光発電システム設置資金への融資にかかる利子補給補助事業
住宅用太陽光発電システム設置費用の融資を行う金融機関へ利子補給の補助をしました。
・融資あつせん件数 60件
- 住宅用太陽光発電システム及び省エネルギー設備整備費補助事業
太陽光発電システム・省エネルギー設備を設置した者に対し、設置費の一部を補助しました。
・件数 123件(エコキュート84件, LED照明38件, 断熱材 1件)
- 大規模太陽光発電システム設置費補助事業
50kW以上のシステム設置事業者に対し、設置費の一部を補助しました。 ・件数 2件
- 太陽熱利用システム設置費補助事業
太陽熱利用システムを設置した者に対し、設置費の一部を補助しました。
・件数 60件

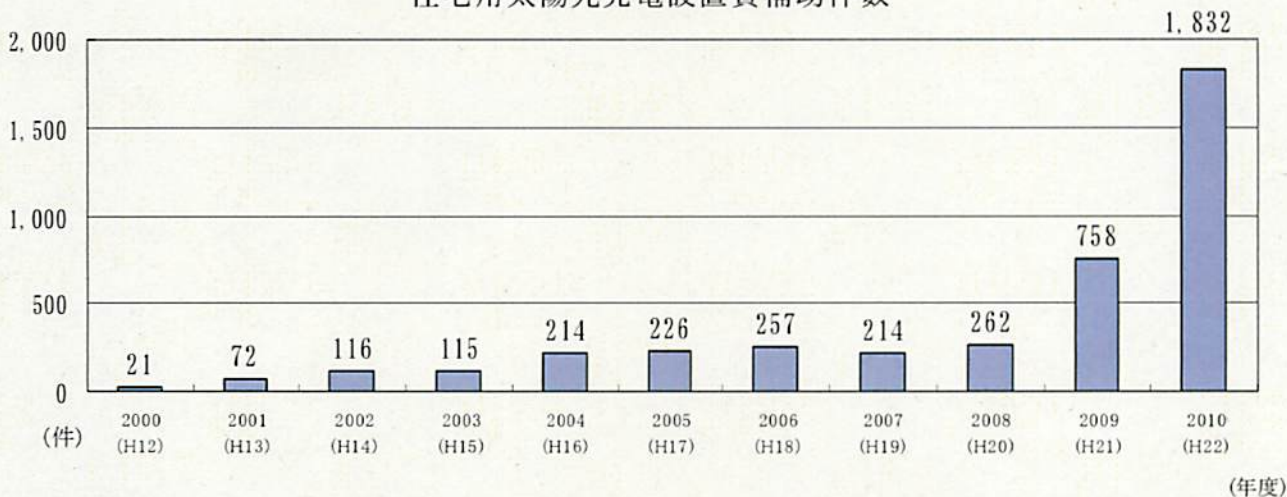


【400kWの事業者用太陽光発電システム】

2 成果と年度別事業費

- 住宅用太陽光発電システム設置補助
・補助件数 2010年度(平成22年度)末で累計 4,087件

住宅用太陽光発電設置費補助件数



(単位：千円)

	2008年度 (平成20年度)	2009年度 (平成21年度)	2010年度 (平成22年度)
事業費	17,795	57,098	148,430

事業費は、「前年度からの繰越額」と「当年度決算額」の合計

施策（事業）名	河川等浄化対策事業	□ 新規 ・ ■ 継続
計画期間	1989年度（平成元年度）～	決算額 175,375千円

1 2010年度（平成22年度）に取り組んだこと

生活排水による汚濁の著しい河川などの水環境の改善を目的に、小型浄化槽の普及促進を行うとともに、流域の各家庭での生活排水浄化対策を実施しました。

○浄化槽設置整備事業費補助

下水道未整備地域の浄化槽設置者へ設置費の一部について補助を行いました。

・5人槽（209基） ・7人槽（222基） ・10人槽（12基） ※転換（47基）

※単独浄化槽から合併浄化槽へ転換する場合

○生活排水啓発事業

芦田川流域における生活排水浄化対策として、社会実験『芦田川きれいきれいプロジェクト』を実施しました。

・社会実験の取組世帯数：約25,000世帯

（瀬戸川流域：約5,000世帯，高屋川流域：約20,000世帯）

□1 水切りネットなどを利用して、調理くずや食べ残しを流さない

□2 鍋や食器などの汚れは、紙でふき取ってから洗う

□3 油を捨てるときは、直接流さず、紙にしみ込ませたり、固めたりして捨てる

□4 洗剤の適量使用を心がける

【社会実験で啓発している家庭でできる生活排水浄化対策】

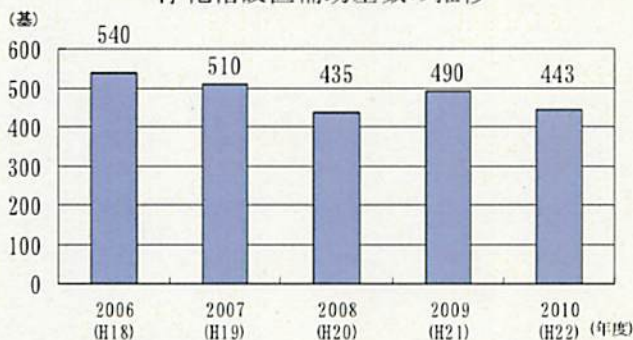
2 成果と年度別事業費

○芦田川流域における汚濁負荷量の低減に一定の効果がありました。

・1989年度（平成元年度）～2010年度（平成22年度） 補助基数7,971基（累計）

○住民の水質浄化に対する意識の向上につながりました。

浄化槽設置補助基数の推移



芦田川の水質状況

(単位:mg/l)

地点	中津原	山手橋	小水呑橋
(基準点)	2.0以下	2.0以下	3.0以下
1989年(平成元年)	1.8	4.1	3.8
2000年(平成12年)	1.7	3.7	5.3
2009年(平成21年)	1.6	2.9	5.5
2010年(平成22年)	1.1	1.8	4.1

(単位：千円)

	2008年度 (平成20年度)	2009年度 (平成21年度)	2010年度 (平成22年度)
事業費	153,990	198,189	175,375

事業費は、「前年度からの繰越額」と「当年度決算額」の合計

施策(事業)名	自転車利用の促進	■ 新規 ・ □ 継続
計画期間	2009年度(平成21年度)～	決算額 234,560千円 (再掲分 227,811千円含む)

1 2010年度(平成22年度)に取り組んだこと

○自転車駐車場の整備

市民の自転車利用を促進するために、自転車駐車場を整備しました。

- ・市役所本庁舎南側自転車駐車場(9月利用開始)
- ・備後本庄駅自転車駐車場(10月利用開始)

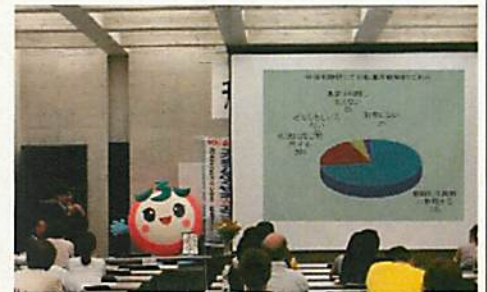


【福山レンタサイクル】

○レンタサイクル利用の推進

福山駅南有料自転車駐車場のレンタサイクル(福山レンタサイクル)を12台更新しました。

- ・レンタサイクル利用状況
年間利用者数 9,800人/年
貸出件数 平均約27人/日(稼働率 約84%)



【チャレンジ「健康」事業講演会】

○自転車利用による健康づくり啓発事業

- ・自転車モニターによる取組結果を日本体力医学会大会で発表を行いました。
- ・チャレンジ「健康」事業講演会などを実施しました。
講演会参加人数 52人

○自転車の交通事故防止・盗難防止啓発事業(※再掲)

○歩道整備事業(※再掲)

○市職員による自転車利用の促進

- ・エコ通勤※参加状況 約60%
- ・公用自転車の利用距離 5,426.5km

※エコ通勤…月1回(第四水曜日)に自転車などを利用しての通勤



【職員によるエコ通勤】

2 成果と年度別事業費

○市職員の自転車利用(エコ通勤, 公用自転車利用)により約21.3トンの二酸化炭素排出量を削減することができました。

○公用自転車利用により、前年度に比べ往復4km以内の公用車利用が1,640km減りました。

(単位：千円)

	2008年度 (平成20年度)	2009年度 (平成21年度)	2010年度 (平成22年度)
事業費	-	(2,600)	234,560 (※再掲分227,811千円含む)

事業費は、「前年度からの繰越額」と「当年度決算額」の合計

施策（事業）名	耕作放棄地再生活用モデル地区支援事業	□ 新規 ・ ■ 継続
計画期間	2009年度(平成21年度)～2013年度(平成25年度)	決算額 9,106千円

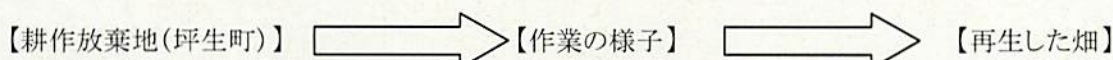
1 2010年度（平成22年度）に取り組んだこと

○耕作放棄地再生活用事業

将来にわたって再び荒廃することのないよう農地としての利用を定着させるため、モデル地区を新たに5地区指定し、福山市耕作放棄地再生活用モデル事業を実施しました。

○耕作放棄地実態把握調査

耕作放棄地の実態を把握するため、農業委員による農地利用状況調査を実施しました。



2 成果と年度別事業費

○新たに5地区をモデル地区に指定し、338aの耕作放棄地を解消しました。

地区名	町名	解消面積	活用方法
上戸手8地区	新市町戸手	17a	市民農園
田尻西下地区	田尻町	42a	かぼちゃ栽培
山野大原地区	山野町山野	25a	大豆栽培等
服部本郷地区	駅家町服部本郷	242a	なつめ・野菜栽培
藤江新涯地区	藤江町	12a	野菜栽培
2010年度合計 (平成22年度)	5地区	338a	
2009年度合計 (平成21年度)	8地区	409a	
2009～2010年度計 (平成21～22年度)	13地区	747a	

○耕作放棄地実態把握調査の結果、市内で106.1haの耕作放棄地を確認しました。

(単位：千円)

	2008年度 (平成20年度)	2009年度 (平成21年度)	2010年度 (平成22年度)
事業費	-	5,997	9,106

事業費は、「前年度からの繰越額」と「当年度決算額」の合計

施策（事業）名	ばらのまちづくり推進事業	□ 新規 ・ ■ 継続
計画期間	2007年度(平成19年度)～	決算額 6,727千円

1 2010年度(平成22年度)に取り組んだこと

「100万本のばらのまち福山」実現に向け、ばらのアクションプランに基づく事業を展開しました。

○ばら香るゾーンの取組

・国道2号へのばらの植栽など

沿線の方々の協力を得る中で、ばらの植栽や「ばらの大通り」としての駅前大通りへの大型プランター設置などを実施しました。



【学校ばら花壇整備事業】

・学校ばら花壇整備事業

市内の各教育施設にばら花壇を整備しました。

(実績) 幼稚園 2園 小学校 14校 中学校 4校

○ばら苗生産体制の充実

・ばら苗育成費補助事業

市制施行100周年に向け、「100万本のばらのまち福山」を実現するため、生産体制の整備に取り組みました。



【ばら大学 8月剪定の様子】

○植栽環境のサポート

・福山ばら大学の開講

地域におけるばら栽培のリーダーを養成するため、ばらに関する知識や育て方の講座を行いました。

(実績) 修了生 62人

○ばらのイメージキャラクターの創出

ばらのイメージキャラクターを募集し、全404作品の応募の中から“ローラ”を決定しました。着ぐるみも作成し、明るいまちづくり推進大会や成人式等に登場するなど、「ばらのまち福山」を広くPRしました。



【ばらのイメージキャラクターローラ】

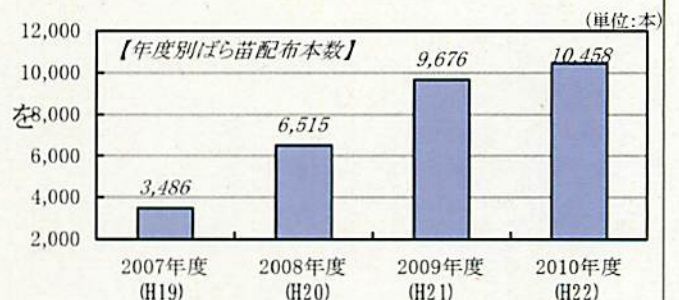
2 成果と年度別事業費

ばらに対する市民の関心が高まり、市内のばらの植栽本数は増加しており、「ばらのまち福山」実感できる環境づくりが進んでいます。

(市内のばらの本数)

2007年度(平成19年度)末:約55万本

2010年度(平成22年度)末:約64万本



(単位:千円)

	2008年度 (平成20年度)	2009年度 (平成21年度)	2010年度 (平成22年度)
事業費	4,642	6,130 (※再掲分1,871千円含む)	6,727

事業費は、「前年度からの繰越額」と「当年度決算額」の合計

施策（事業）名	協働のまちづくり推進事業	□ 新規 ・ ■ 継続
計画期間	2005 年度(平成 17 年度)～	決算額 1, 209 千円

1 2010 年度（平成 22 年度）に取り組んだこと

○地域活動や市民活動を担うリーダーの発掘・育成

地域活動等の企画・運営・管理などができる人材育成を目的に取り組みました。

・まちづくり出前講座

(実施回数) 1,034 回 (参加者数) 94,466 人



【協働のまちづくりフォーラム】

・協働のまちづくりフォーラム

日時：2010 年（平成 22 年）8 月 22 日（日）

(参加者数) 250 人



【リーダー養成講座】

・リーダー養成講座

まちづくりチャレンジワークショップ（全 2 回）

日時：2010 年（平成 22 年）9 月 9 日（木）～9 月 11 日（土）

2011 年（平成 23 年）2 月 24 日（木）～2 月 25 日（金）

(参加者数) 361 人

・生涯学習センター別研修

(参加者数)

中部 150 人 南部 300 人

松永 55 人 北部 160 人

東部 52 人 神辺 81 人



【生涯学習センター別研修の様子】

2 成果と年度別事業費

○まちづくり出前講座やまちづくりフォーラムなどの参加者が増加するなど、市民の皆さんのまちづくりへの関心が高まっています。

・まちづくり出前講座 84,962 人（前年度）→94,466 人（2010 年度(平成 22 年度)）

・まちづくりフォーラム 127 人（前年度）→ 250 人（2010 年度(平成 22 年度)）

○生涯学習センター別に研修会を開催し、地域の事例発表を行うなど、地域の特色を活かした課題解決や活性化につながってきています。

(単位：千円)

	2008年度 (平成20年度)	2009年度 (平成21年度)	2010年度 (平成22年度)
事業費	158,861	191,555 (※再掲分1,262千円含む)	1,209

事業費は、「前年度からの繰越額」と「当年度決算額」の合計
注) 2010 年度（平成 22 年度）から人材育成の事業費のみを計上

施策（事業）名	地域ポイント制度(まちづくりパスポート事業)	□ 新規 ・ ■ 継続
計画期間	2009年度(平成21年度)～	決算額 1,609千円

1 2010年度（平成22年度）に取り組んだこと

○まちづくりパスポート（冊子）の発行

地域活動やボランティア活動などの内容や獲得したポイントを記録する手帳形式のパスポートを発行しました。

(まちづくりパスポート配布数) (単位:冊)

小学生	中学生	高校生	大学生等	家族	合計
11,122	3,022	299	334	1,056	15,833



【まちづくりパスポート 2010】

○ポイント対象活動の実施

次の基準に基づき、ポイントの対象となる活動を選定、実施しました。

- ①学習・体験 …25ポイント（1時間につき） / 50ポイント（2時間以上の活動）
- ②ボランティア参加 …25ポイント（1時間につき） / 200ポイント（1日上限）

(対象活動参加者数) (単位:人)

	小学生	中学生	高校生	大学生等	家族	合計
①学習・体験	8,755	417	155	146	1,635	11,108
②ボランティア参加	3,006	2,875	441	414	904	7,640
合計	11,761	3,292	596	560	2,539	18,748

○ポイントに応じた特典の交付

ポイント数に応じて、公共施設の入場割引券、図書カードなどの特典を交付しました。また、参加意欲を高めるよう、新たに累計ポイントを設定し、抽選による特典を交付しました。

(実績) 特典交換者数 延 380 人
抽選による特典交換者数 60 人



【ばら祭でのまちパス活動】

2 成果と年度別事業費

- 15,000冊を配布することができ、事業の周知・浸透を図ることができました。
- 対象活動などを掲載した「まちパスニュース」(Vol. 6～10)を市内の小中学校の児童生徒に配布したところ、活動によっては前年度よりも参加者が倍増したものもあり、まちづくりパスポート事業を通じて若い世代の地域活動・ボランティア活動への参加が拡大しています。

(単位:千円)

	2008年度 (平成20年度)	2009年度 (平成21年度)	2010年度 (平成22年度)
事業費	-	1,262	1,609

事業費は、「前年度からの繰越額」と「当年度決算額」の合計

施策（事業）名	行財政改革の推進	□ 新規 ・ ■ 継続
計画期間	2006年度(平成18年度)～2010年度(平成22年度)	決算額 ー 千円

1 2010年度(平成22年度)に取り組んだこと

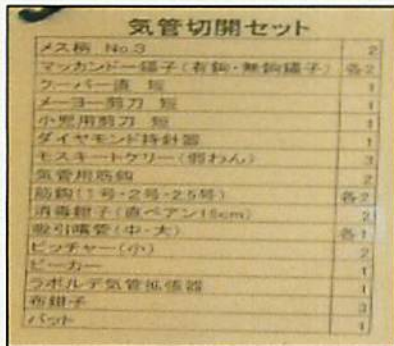
○ワンステップアップ運動の実施

市民サービス向上のため、179件のテーマに取り組みました。優秀事例は全国で発表。

市長賞：パーフェクトフォトで「整いました！」（市民病院看護部HCU）

手術後の膨大な器具をより早く、正確に元のセットに戻すため、器具をセット毎に並べた原寸大写真に、器具名や数量を示した「パーフェクトフォト」を作成しました。視覚的に器具が判別できるようになり、時間短縮や正確性の向上につなげました。

【改善前】



【改善後】



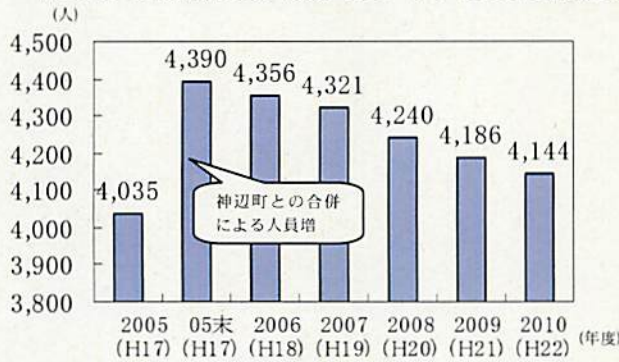
○中長期定員適正化計画の着実な実施と人材育成の推進

・中長期定員適正化計画（2006年度(平成18年度)～2015年度(平成27年度)）を改定しました。

※ 策定2006年(平成18年)2月 第1期計画2006年度(平成18年度)～2010年度(平成22年度)
改定2011年(平成23年)2月 第2期計画2011年度(平成23年度)～2015年度(平成27年度)

・2010年(平成22年)4月1日の総職員数 4,144人(対前年42人減)

・市民との協働によるまちづくりを更に推進するため、人材育成基本方針を改定しました。



策定
1999年(平成11年)3月
改定
2011年(平成23年)3月

【人材育成基本方針】

○「福山市行財政改革大綱(第4次)」の策定

持続可能なまちづくりを進めるため、2011年度(平成23年度)以降の行財政改革の指針となる行財政改革大綱(第4次)と、具体的な取組項目をまとめた実施プランを策定しました。

2 成果

○2010年度(平成22年度)の節減額

〈参考〉

行財政改革大綱(第3次)の節減額：約83.1億円



2006年度(平成18年度)～2010年度(平成22年度)までの5年間

施策（事業）名	鞆地区町並み保存(※再掲)	□ 新規 ・ ■ 継続
計画期間	2007 年度(平成 19 年度)～	決算額 11,704 千円

1 2010 年度（平成 22 年度）に取り組んだこと

○町並み保存事業補助

歴史の息づく町並み保存地区内の建造物などの修理・修景事業に対して、補助金の交付を行い、歴史的景観の整備を進めました。

・補助件数 4 件（修理事業 1 件、応急処置 2 件、修景事業 1 件）

数値目標：補助件数 6 件



【修理前…建物が傾き、屋根瓦が落下】



【修理後…屋根瓦など全体をきれいに修理】

○町並み保存推進費

町並み保存を推進するため、鞆の伝統的建造物に詳しい大学教授など専門家へ相談しながら国の重要伝統的建造物群保存地区の選定に向けて取り組みました。

○補完調査の実施

重要伝統的建造物群保存地区の選定に向け、鞆地区の町並みの価値をより明らかにするため、社寺建築調査、都市史調査、景観調査など補完調査を実施しました。

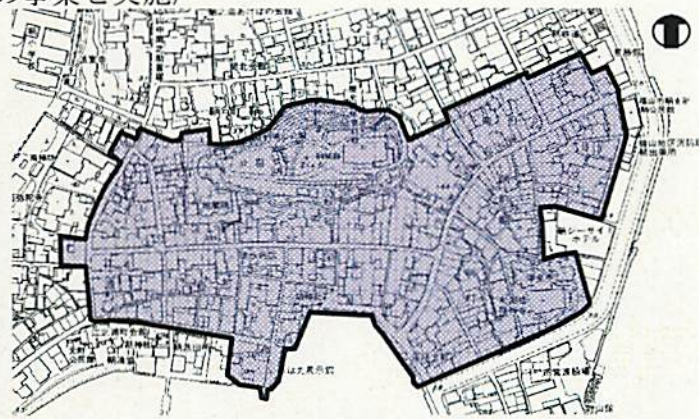
2 成果と年度別事業費

○市単独の補助事業により、貴重な文化財である鞆の町並みを守っています。

（2010 年度（平成 22 年度）までに 46 件の事業を実施）



【鞆の町並み】



【鞆町伝統的建造物群保存地区】

（単位：千円）

	2008年度 (平成20年度)	2009年度 (平成21年度)	2010年度 (平成22年度)
事業費	1,992	9,355	11,704

事業費は、「前年度からの繰越額」と「当年度決算額」の合計

施策（事業）名	鞆地区道路港湾整備事業	<input type="checkbox"/> 新規 ・ <input checked="" type="checkbox"/> 継続
計画期間	2005 年度(平成 17 年度)～	決算額 ー 千円

1 2010年度（平成22年度）に取り組んだこと

- 広島県により、2010年（平成22年）5月15日に鞆地区地域振興住民協議会が立ち上げられました。（2010年度（平成22年度）は10回開催）
- 鞆地区道路港湾整備事業に係る公有水面埋立免許が得られていないため、事業は未着手となっています。



【鞆地区道路港湾整備事業整備イメージ】

2 年度別事業費

（単位：千円）

	2008年度 (平成20年度)	2009年度 (平成21年度)	2010年度 (平成22年度)
事業費	694	3,277	-

事業費は、「前年度からの繰越額」と「当年度決算額」の合計

施策（事業）名	鞆地区まちづくりの推進	□ 新規 ・ ■ 継続
計画期間	2007 年度(平成 19 年度)～	決算額 ー 千円

1 2010年度（平成22年度）に取り組んだこと
まちづくりの目標

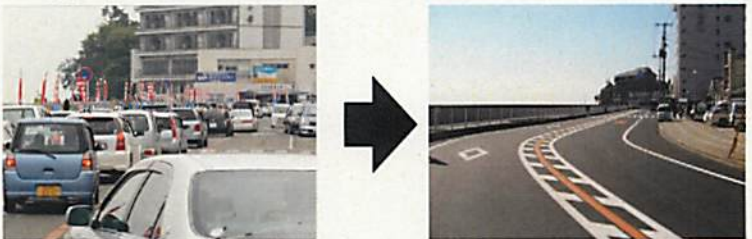
安全で快適な生活環境の整備 歴史文化と地域生活の調和 活力ある地域社会の構築

○広島県による「鞆地区地域振興住民協議会」の進捗を見守りつつ、「いろは丸」の就航、「龍馬伝」効果による観光客の増加に伴い、住民生活へ影響を及ぼす状況から、県・警察・地元との協議を重ね、現状で可能な取組を行いました。

「福山市鍛冶駐車場」の案内板へ、LEDによる「満空」表示板設置



県道福山鞆線の交通混雑対策（広島県事業）
（路側への駐車抑制と車両通行の確保）



公衆トイレを「鞆の町並みに相応しい外観」とするなど改修
（道越町公衆トイレ）



○今後、鞆地区まちづくり整備方針を早期に成案化し、抜本的かつ総合的なまちづくりを推進します。

2 年度別事業費

（単位：千円）

	2008年度 (平成20年度)	2009年度 (平成21年度)	2010年度 (平成22年度)
事業費	-	-	-

事業費は、「前年度からの繰越額」と「当年度決算額」の合計

施策（事業）名	福山駅周辺整備事業	□ 新規 ・ ■ 継続
計画期間	1999年度(平成11年度)～	決算額 3,188,826千円

1 2010年度（平成22年度）に取り組んだこと

備後都市圏の玄関口にふさわしい魅力とにぎわいのある交流拠点を形成するため、福山駅前広場整備事業や市街地再開発事業を行いました。

○福山駅前広場整備事業

地下送迎場第2期，第3期工事



【地下送迎場工事】

○東桜町地区市街地再開発事業

（区域面積約1.0ha 延べ面積約51,000㎡）

本体建築工事費補助



【アイネスフクヤマ】



【福山駅前広場整備イメージ図】

○伏見町地区市街地再開発事業 基本計画案策定のためコンサルタント派遣

2 成果と年度別事業費

○東桜町地区市街地再開発事業の再開発ビルが2011年（平成23年）2月に完成しました。

（2011年（平成23年）4月1日 「アイネスフクヤマ」グランドオープン）

○市道元町2号線道路改良事業〔宮通り:美装化〕が2011年（平成23年）3月に完成しました。

（単位：千円）

	2008年度 (平成20年度)	2009年度 (平成21年度)	2010年度 (平成22年度)
事業費	995,167	1,847,355	3,188,826

事業費は、「前年度からの繰越額」と「当年度決算額」の合計

施策（事業）名	「福山らしさ」創出事業	<input type="checkbox"/> 新規 ・ <input checked="" type="checkbox"/> 継続
計画期間	2007年度(平成19年度)～	決算額 81,803千円

1 2010年度（平成22年度）に取り組んだこと

地域資源の掘り起こしと磨き上げを通じ、本市の魅力为全国へ積極的に発信しました。

○福山ミステリー文学新人賞事業

(1) 『島田荘司選 ばらのまち福山ミステリー文学新人賞』選考関連事業

第3回の募集・選考・受賞作の決定と第4回の作品募集を行いました。



【第3回受賞作発表記者会見と受賞作】

(2) 第1回優秀作『少女たちの羅針盤』の映画化支援

第1回優秀作「少女たちの羅針盤」の映画化にかかる経費の一部負担しました。市内全域でロケを行い、随所に魅力的な風景が映し出され、映像を通じて福山の魅力を発信しました。

①撮影の後方支援

i 制作支援（撮影場所の調整、撮影の協力要請、道路等の使用手続）

ii エキストラ支援（エキストラの募集や出演調整）

エキストラ 応募人数 2,481人

参加人数 1,085人（うち7/19 神辺文化会館での撮影 632人）

iii 美術支援（撮影に使用する道具類等の準備）

②撮影期間 6月30日（水）～7月26日（月）



【映画ポスター】

○食のブランド化事業

福山食ブランド創出市民会議において、郷土料理「うずみ」と「鯛」を用いたレシピの開発を行うなど、福山発の食ブランドづくりに取り組みました。



【福山うずみごはん】

○「龍馬・いろは丸ゆかりの地鞆の浦」の発信

大河ドラマ「龍馬伝」の放映に合わせ、「大河ドラマ「龍馬伝」を福山で応援する会（福援隊）」を設置（構成団体15団体）し、いろは丸事件の舞台となった鞆の浦を全国に発信しました。

(1) 誘客宣伝事業

①「仙酔島・龍馬といろは丸展」・大河ドラマ「龍馬伝」展の開催（1月9日～11月30日）

入場者数：90,258人

②福援隊ホームページの運営（2009年(平成21年)12月1日～2010年(平成22年)12月31日）

アクセス数：69,838件

③鞆の浦ミステリーウォーク「龍馬・鞆の浦ミステリー探検'10」（10月1日～11月30日）

応募総数：1,430通

④NHKなどとの連携事業

- i 「龍馬伝」トークセッションの開催 (4月23日)
講演：武田鉄矢、鈴木圭 (「龍馬伝」チーフプロデューサー) 入場者数：500人
- ii 坂本龍馬を辿る旅写真展の開催 (9月4日～14日) 観覧者数：7,106人
- iii ドラマ後の「龍馬伝紀行」で鞆の浦を紹介 (10月17日)

⑤メディアを活用した広告宣伝事業

(2) 連携交流事業 (高知・長崎との観光交流事業)

- ①高知県立図書館で「福山の龍馬」開催 (5月8日～6月6日)
- ②福山市北部図書館で展示「坂本龍馬と高知」 (5月19日～6月14日)
- ③交換観光展示会・長崎県立図書館「坂本龍馬と福山」展 (7月1日～31日)
- ④交換観光展示会・福山市中央図書館「坂本龍馬と長崎」展 (7月1日～31日)
- ⑤福山夏まつりいろは丸 YOSAKOI に高知市と長崎市から交流チームを招聘 (8月14日)
- ⑥大河ドラマ「龍馬伝」特別展で平成いろは丸を映像で紹介 (東京展, 京都展, 高知展, 長崎展) など

(3) 受入接客事業

- ①キャラクターの着ぐるみ, 歓迎時計台の制作など, 観光客歓迎ムード醸成のための資材制作
- ②紀州藩宿舎・圓福寺の特別公開 (10月11日毎週日曜日 (12日間)) 入場者数 379人
- ③龍馬宿泊跡・榎屋清右衛門宅の特別公開 (11月13～15日 (3日間)) 入場者数 519人
- ④龍馬をしのぶ花めぐり (11月13～15日)
- ⑤鞆龍馬おもてなし隊の結成 (10月11日) 協力隊員 19人



【鞆龍馬おもてなし隊】

龍馬に扮したおもてなし隊が、鞆の浦をまわり、観光客との記念撮影など思い出づくりをお手伝いしました。

など

2 成果と年度別事業費

○福山ミステリー文学新人賞

- ・海外を含め, 全国各地から応募があり, ミステリー文学界に新風を送ることができました。
- ・受賞作品の映画化により, 福山市の知名度向上につながりました。

○「龍馬・いろは丸ゆかりの地鞆の浦」の発信

- ・観光客数が増加しました。対前年比 28.5%増加 (2010年 (H22) 2,406千人, 前年 1,873千人)



	2008年度 (平成20年度)	2009年度 (平成21年度)	2010年度 (平成22年度)
事業費	20,564	56,735	81,803

事業費は、「前年度からの繰越額」と「当年度決算額」の合計
 注) 2008年度 (平成20年度) は、「都市ブランドの創出と発信」の事業費
 2009年度 (平成21年度) は、「きらり福山発信事業」「福山らしさ」創出事業
 「島田荘司選 ばらのまち福山ミステリー文学新人賞」の事業費を計上

施策(事業)名	ものづくり等人材育成事業	□ 新規 ・ ■ 継続	
計画期間	2009年度(平成21年度)～2011年度(平成23年度)	決算額	3,719千円

1 2010年度(平成22年度)に取り組んだこと

○経営力強化人材育成事業

中小企業者で構成するグループなどが実施する、ものづくり技術等の継承事業や大学などと連携して実施する人材育成事業に対し、支援を行いました。(研修参加人数 398人)

- ・ものづくり技術継承事業(7件)
「溶接技能」「機械加工技術」「鋳造技術」「飾り菓子製法」など
- ・社会経済環境の変化に対応するためのセミナー事業(4件)
「電子産業界の需要動向や新技術・新製品の開発見通し」
「売れる営業マンになる仕事術」 など
- ・研修機関活用事業(6件)
「国際取引実務研修」「営業管理者養成コース」「機械制御のためのマイコン実践技術」
「女性リーダーの育成講座」 など



【ものづくり技術継承事業】

○ものづくり啓発事業

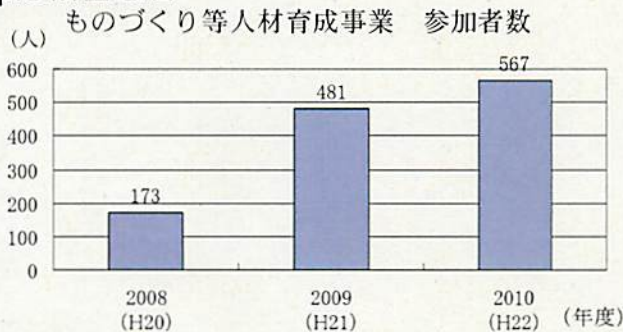
中小企業等と大学や各種団体が、企業の技術や特徴的な製品などを教材として、児童生徒を対象に実施するものづくり啓発事業に対し、支援を行いました。(参加人数 169人)

- ・「コンピュータ制御のロボット製作」
- ・「金襴緞子を使ったひな人形・うちわ作り」
- ・「カラクリ玩具の作成」
- ・「ミニ畳の作業体験」 など



【ものづくり啓発事業】

2 成果と年度別事業費



※2008(H20)は、ものづくり技術継承事業の参加者数

(単位：千円)

	2008年度 (平成20年度)	2009年度 (平成21年度)	2010年度 (平成22年度)
事業費	2,950	3,907	3,719

事業費は、「前年度からの繰越額」と「当年度決算額」の合計
注)2008年度(平成20年度)は、「ものづくり技術継承事業」に係る事業費のみ

施策（事業）名	赤ちゃん訪問事業	□ 新規 ・ ■ 継続
計画期間	2008年度(平成20年度)～	決算額 12,807千円

1 2010年度（平成22年度）に取り組んだこと

○こんにちは赤ちゃん訪問事業

キラキラサポーター・育児家庭訪問員や保健師などが、生後4か月までの乳児がいる家庭を訪問し、子育て支援情報の提供や子育ての悩みを聴くなど、支援を行いました。

(実績)

- ・訪問数 4,034件（2010年度(平成22年度)出生数 4,581人）
- ・訪問率 88.1%（目標 100%） ※対前年1.5%増

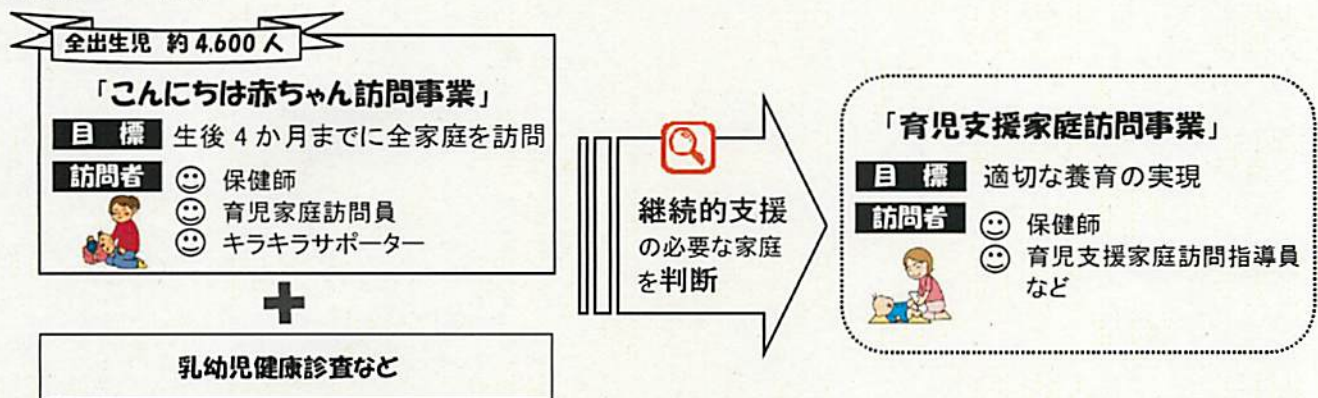


【家庭訪問の様子】

○育児支援家庭訪問事業

育児支援が特に必要であると判断した家庭に対し、保健師や育児支援家庭訪問指導員などが、育児に関する指導・助言などの支援を行いました。

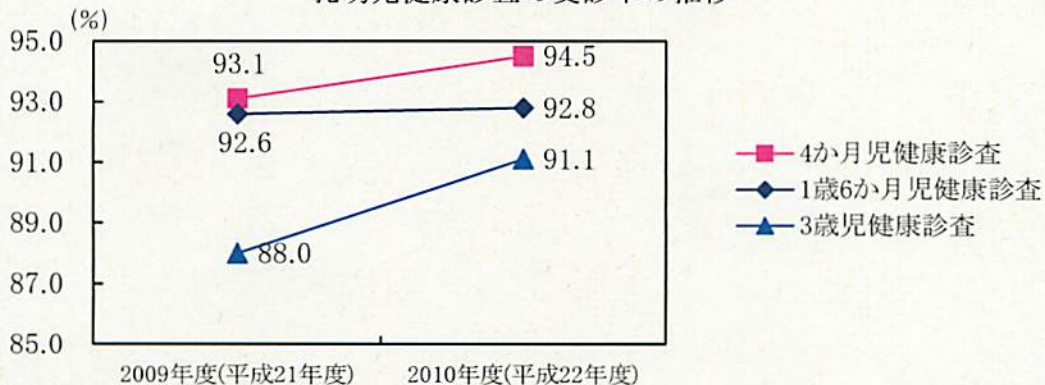
【事業フロー図】



2 成果と年度別事業費

育児に関する相談や市の保健事業の周知を行ったことにより、乳幼児健康相談の参加者が増加し、4か月児健康診査・1歳6か月児健康診査・3歳児健康診査の受診率も向上しました。

乳幼児健康診査の受診率の推移



(単位：千円)

	2008年度 (平成20年度)	2009年度 (平成21年度)	2010年度 (平成22年度)
事業費	10,833	12,735	12,807

事業費は、「前年度からの繰越額」と「当年度決算額」の合計

施策（事業）名	保育所等における子育て支援事業の充実	<input type="checkbox"/> 新規 ・ <input checked="" type="checkbox"/> 継続
計画期間	2006 年度(平成 18 年度)～	決算額 129,418千円

1 2010年度（平成22年度）に取り組んだこと

○保育所を地域の子育て支援の拠点として位置付け、「子育て支援センター事業」の事業内容の充実と施設数の拡大に取り組みました。



【プレイルームでの世代を超えた交流】



【子育て情報の交換】



【子育て講座／夢みるパパとママの会】



【子育て講座／ベビーヨガ】

○子育て支援センター事業従事者が、資質向上のための研修に参加する機会を充実しました。

2 成果と年度別事業費

○子育て中の親同士や子どもたちの交流の場を提供することができ、育児不安の軽減につながっています。

○実施施設数の拡大（新規実施施設 私立保育所1か所 水呑保育所（法人移管に伴うもの））

（実施施設数・利用状況）

	2008年度 (平成20年度)	2009年度 (平成21年度)	2010年度 (平成22年度)
施設数	22 (公立10, 私立12)	23 (公立10, 私立13)	24 (公立10, 私立14)
利用者数	110,581人	105,126人	140,452人
相談件数	16,793件	12,565件	15,388件

（単位：千円）

	2008年度 (平成20年度)	2009年度 (平成21年度)	2010年度 (平成22年度)
事業費	120,882	125,073	129,418

事業費は、「前年度からの繰越額」と「当年度決算額」の合計

施策（事業）名	保育所再整備	□ 新規 ・ ■ 継続
計画期間	2006年度(平成18年度)～2015年度(平成27年度)	決算額 676,026千円

1 2010年度（平成22年度）に取り組んだこと

○公立保育所の改築

- ・服部南保育所を改築しました。



【改築前】



【改築後】

○公立保育所の法人移管

- ・水呑保育所を移管し、改築しました。
- ・鞆こども園設置に向けた施設整備を実施しました。（鞆保育所・鞆平保育所 移管）



【水呑保育所】



【鞆こども園】

○私立保育所の改築

- ・童心園保育所や、まこと保育園の改築を実施しました。



【童心園保育所】



【まこと保育園】

2 成果と年度別事業費

- 老朽化した公立保育所や私立保育所を改築し、入所定員の拡大や保育環境の改善を行いました。
- 公立保育所の法人移管や改築により、入所定員の拡大や低年齢児の受け入れ、子育て支援センターの設置などを行い多様な保育サービスの提供が可能となりました。

（整備が完了した施設）

	2008年度 (平成20年度)	2009年度 (平成21年度)	2010年度 (平成22年度)
公立保育所整備	1施設	2施設	1施設
移管保育所整備	1施設	1施設	2施設
私立保育所整備	—	2施設	2施設

（単位：千円）

	2008年度 (平成20年度)	2009年度 (平成21年度)	2010年度 (平成22年度)
事業費	596,280	952,920	676,026

事業費は、「前年度からの繰越額」と「当年度決算額」の合計

施策（事業）名	生活バス交通利用促進対策事業	<input type="checkbox"/> 新規 ・ <input checked="" type="checkbox"/> 継続
計画期間	2006年度(平成18年度)～	決算額 72,603千円

1 2010年度（平成22年度）に取り組んだこと

○低床バスの導入補助

バスの乗降口に段差のないノンステップバスを導入したバス事業者に対して支援を行いました。

・ノンステップバス導入台数：大型1台，中型6台



【ノンステップバス】

○バス交通の利用促進事業

福山駅前バス利用者への乗場案内やバスまつりなどの各種イベントでPR活動を行いました。

※バスまつり参加人数 約5,000人（主催者発表）



【ふくやまバスまつり2010】

○東部地域における支線バス路線の実証運行

通院、鉄道などへの乗り継ぎがしやすいバス路線の実証運行を実施しました。

運行経路 ①伊勢丘三丁目～東福山駅北口～福山市民病院

②鋼管病院～伊勢丘三丁目～大門駅北口

東部地域フィーダーバス(支線バス)



【鳳団地】



【伊勢丘三丁目】

2 成果と年度別事業費

○生活バス交通の利用促進の取組後、年間のバス利用者の減少幅が縮小傾向にあり、バス路線の維持・確保が図られています。

(単位：千円)

	2008年度 (平成20年度)	2009年度 (平成21年度)	2010年度 (平成22年度)
事業費	50,428	59,005	72,603

事業費は、「前年度からの繰越額」と「当年度決算額」の合計

施策(事業)名	広域交通体系の整備と物流機能の強化	□ 新規 ・ ■ 継続
計画期間	1998年度(平成10年度)～2012年度(平成24年度)	決算額 536,215千円

1 2010年度(平成22年度)に取り組んだこと

福山都市圏における交通渋滞を解消・緩和し、社会経済活動や都市間交流の活性化に向け、街路整備事業を行いました。

- 都市計画道路事業 津之郷奈良津線(山手橋架替)
旧山手橋の撤去と下部工事の一部に取り組みました。



【都市計画道路3・5・614号津之郷奈良津線工事風景】



【山手橋の下部工の一部(橋台1基, 橋脚3基)完了】

2 年度別事業費

(単位：千円)

	2008年度 (平成20年度)	2009年度 (平成21年度)	2010年度 (平成22年度)
事業費	579,717	257,412	536,215

事業費は、「前年度からの繰越額」と「当年度決算額」の合計

施策（事業）名	地産地消推進運動	□ 新規 ・ ■ 継続
計画期間	2009年度(平成21年度)～2013年度(平成25年度)	決算額 18,655千円 (再掲分 9,497千円含む)

1 2010年度(平成22年度)に取り組んだこと

○地産地消モデル地区の設定(芦田市原・新市芦浦の2地区)



【市原地区】



【芦浦地区】

耕作放棄地対策や地産地消の優れた取組を行う地区をモデル地区として広く市民に紹介し、他の地区における取組を喚起しました。

○学校給食への市内産農林水産物の使用拡大



【地場産物100%給食の日】

市制施行記念日に学校給食「地場産物100%給食の日」を実施しました。

○産直市への支援



【産直市マップ】

市内産直市のおすすめ情報を紹介した産直市マップの作成などに取り組みました。

○市内産農林水産物生産拡大事業

ふくやまSUNの市内市場出荷量の増加を図るため、市場出荷用の資材費に助成するとともに、新規栽培者の育成や産直市出荷者を支援しました。

○耕作放棄地再生活用モデル事業費補助(※再掲)

「耕作放棄地再生活用モデル地区支援事業」に掲載

2 成果と年度別事業費

○地産地消モデル地区の設定や学校給食への市内産農林水産物の直接納入の拡大などを通じて、地産地消運動の浸透と具体的取組の拡大を進めました。

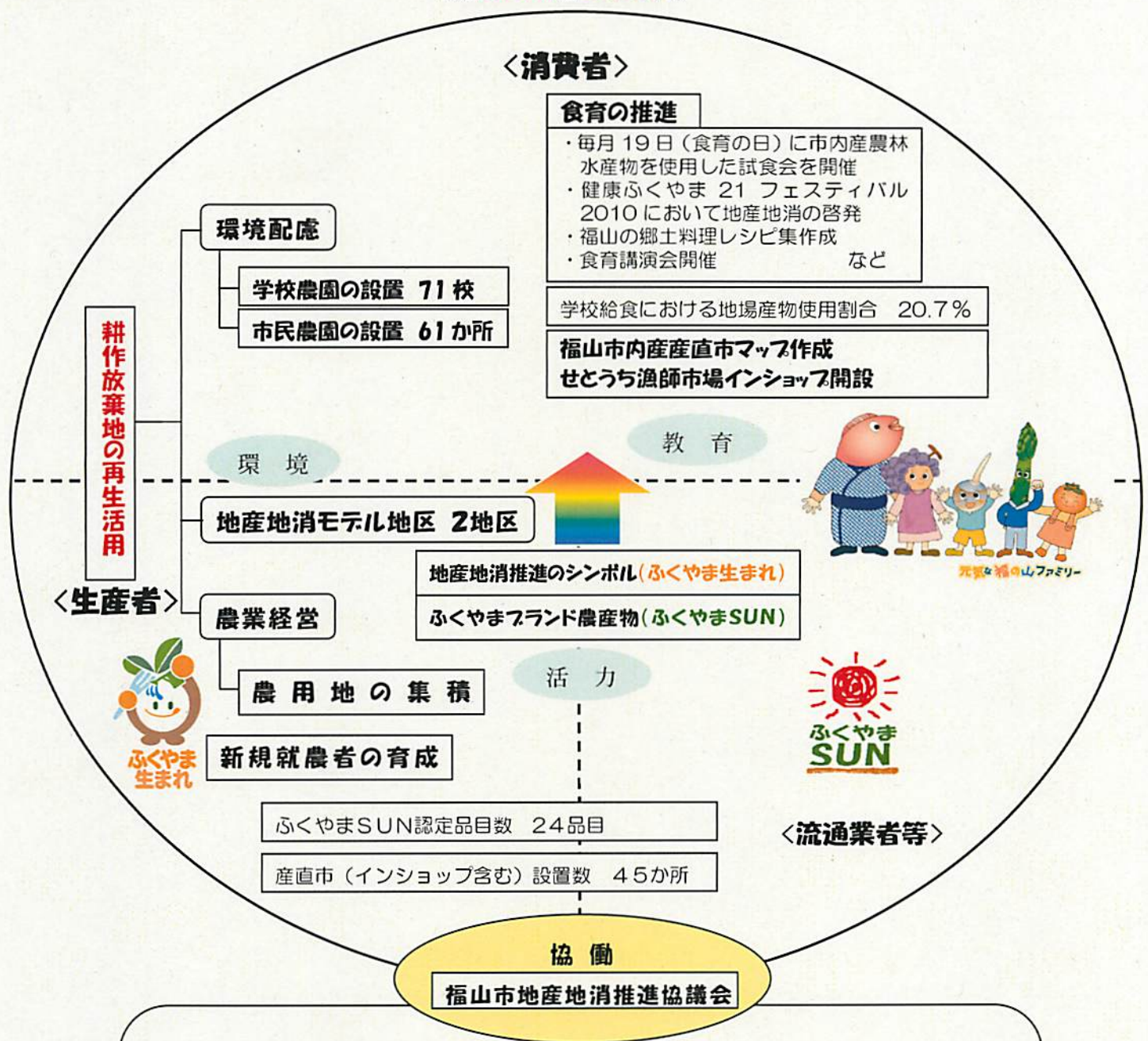
・学校給食における地場産物使用割合 20.7% (対前年度 3.0%増)

(単位：千円)

	2008年度 (平成20年度)	2009年度 (平成21年度)	2010年度 (平成22年度)
事業費	-	8,612 (※再掲分5,997千円含む)	18,655 (※再掲分9,497千円含む)

事業費は、「前年度からの繰越額」と「当年度決算額」の合計

「福山発！地産地消」推進運動の展開 (地SUN地SHOW)



〈行政支援〉

- 耕作放棄地再生活用への支援
- 農業生産基盤の整備
- 農業担い手の育成確保
 - ・中核的農業者
 - ・集落法人
 - ・多様な担い手
- 地産地消モデル地区設定
- ふくやまSUN認定団体への支援
- ふくやまSUNの消費宣伝への支援
- 産直市への支援
- 地産地消の啓発活動
- 学校給食等への市内産農林水産物使用拡大

※ふくやま生まれ：市内産農林水産物及びその加工食品の「シンボルマークと愛称」を公募により制定
 ※ふくやまSUN：ふくやまブランド農産物の愛称として定着

施策（事業）名	農業基盤整備事業	□ 新規 ・ ■ 継続
計画期間	2006年度(平成18年度)～2013年度(平成25年度)	決算額 51,935千円

1 2010年度（平成22年度）に取り組んだこと

地域特性を活かした農業の持続的な発展と地域の活性化を目的に、農業基盤整備による優良な農用地の確保や生活基盤整備などを行いました。（農村振興総合整備事業 芦品地区：芦田町・新市町地内）



【集落防災安全施設防火水槽(芦田)】



【金丸1号農道(新市)】

2 成果と年度別事業費

- 芦田 ほ場整備 1 地区
集落防災安全施設整備 防火水槽 1 基
- 新市 農業用排水施設整備 1 水路
農道整備 2 路線
集落道整備 2 路線
集落防災安全施設整備 防火水槽 1 基

(単位：千円)

	2008年度 (平成20年度)	2009年度 (平成21年度)	2010年度 (平成22年度)
事業費	285,626	130,808	51,935

事業費は、「前年度からの繰越額」と「当年度決算額」の合計

施策（事業）名	耕作放棄地再生活用モデル地区支援事業(※再掲)	□ 新規 ・ ■ 継続
計画期間	2009年度(平成21年度)～2013年度(平成25年度)	決算額 9,106千円

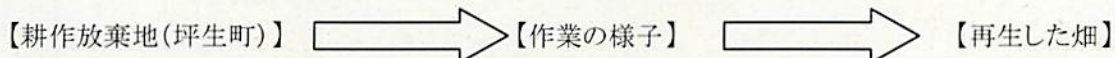
1 2010年度（平成22年度）に取り組んだこと

○耕作放棄地再生活用事業

将来にわたって再び荒廃することのないよう農地としての利用を定着させるため、モデル地区を新たに5地区指定し、福山市耕作放棄地再生活用モデル事業を実施しました。

○耕作放棄地実態把握調査

耕作放棄地の実態を把握するため、農業委員による農地利用状況調査を実施しました。



2 成果と年度別事業費

○新たに5地区をモデル地区に指定し、338aの耕作放棄地を解消しました。

地区名	町名	解消面積	活用方法
上戸手8地区	新市町戸手	17a	市民農園
田尻西下地区	田尻町	42a	かぼちゃ栽培
山野大原地区	山野町山野	25a	大豆栽培等
服部本郷地区	駅家町服部本郷	242a	なつめ・野菜栽培
藤江新涯地区	藤江町	12a	野菜栽培
2010年度合計 (平成22年度)	5地区	338a	
2009年度合計 (平成21年度)	8地区	409a	
2009～2010年度計 (平成21～22年度)	13地区	747a	

○耕作放棄地実態把握調査の結果、市内で106.1haの耕作放棄地を確認しました。

(単位：千円)

	2008年度 (平成20年度)	2009年度 (平成21年度)	2010年度 (平成22年度)
事業費	-	5,997	9,106

事業費は、「前年度からの繰越額」と「当年度決算額」の合計

施策（事業）名	高齢者おでかけ支援事業	<input type="checkbox"/> 新規 ・ <input checked="" type="checkbox"/> 継続
計画期間	2009年度(平成21年度)～	決算額 9,948千円

1 2010年度（平成22年度）に取り組んだこと

○高齢者おでかけ支援事業

外出支援を必要とする高齢者が積極的に地域活動や社会参加ができるよう、地域からの提案を受けてモデル学区を選定し、地元住民・団体と協働して高齢者の外出支援を行いました。

(実績)

- ・実施学区 7学区（常金丸・常石・山野・走島・内浦・服部・熊野学区）

2010年度（平成22年度）から新たに熊野学区で事業を実施しました。



【常金丸学区高齢者おでかけ応援隊】



【熊野学区おでかけ支援隊】

2 成果と年度別事業費

○利用者からは「通院や買物が楽になり助かっている」と喜ばれており、家に閉じこもりがちな高齢者の外出機会の増加につながっています。

○事業に携わることで、運転ボランティアの生きがいづくりにつながっています。

○利用者の声が地域内に広まったことにより、全学区において会員数が増加しています。

(モデル地区実施状況)

学区		常金丸	常石	山野	走島	内浦	服部	熊野	計
会員登録数	2009年度 (H21年度)	52人	56人	39人	27人	67人	57人	—	298人
	2010年度 (H22年度)	63人	61人	47人	30人	78人	61人	35人	375人
運転ボランティア人数	2009年度 (H21年度)	13人	4人	10人	19人	11人	10人	—	67人
	2010年度 (H22年度)	15人	4人	12人	17人	11人	12人	10人	81人

(単位：千円)

	2008年度 (平成20年度)	2009年度 (平成21年度)	2010年度 (平成22年度)
事業費	—	7,682	9,948

事業費は、「前年度からの繰越額」と「当年度決算額」の合計

施策（事業）名	(仮称)こども発達支援センターの整備	<input type="checkbox"/> 新規 ・ <input checked="" type="checkbox"/> 継続
計画期間	2009年度(平成21年度)～	決算額 272千円

1 2010年度（平成22年度）に取り組んだこと

発達に課題のある子どもについて、幼児期から専門的診断に基づく適切な支援を行うため、相談・診療・支援などの機能を併せ持った県東部の拠点施設として、(仮称)こども発達支援センターの整備に向け取り組みました。

○「(仮称)こども発達支援センター整備準備委員会」の開催

(仮称)療育センター整備基本構想の具体化や、管理運営体制などを協議しました。



【(仮称)こども発達支援センター整備準備委員会】

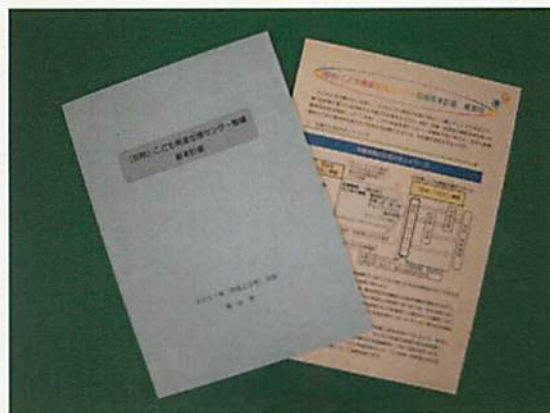
2 成果と年度別事業費

○「(仮称)こども発達支援センター整備基本計画」の策定

県や近隣市町（尾道市、三原市、府中市、神石高原町）と連携する中で策定しました。

【計画の概要】

- ・ 支援のためのネットワーク
- ・ 想定される部門・機能・職種
- ・ 発達障がいにかかる相談及び支援システム
- ・ 施設整備計画 など



(単位：千円)

	2008年度 (平成20年度)	2009年度 (平成21年度)	2010年度 (平成22年度)
事業費	-	5,245	272

事業費は、「前年度からの繰越額」と「当年度決算額」の合計
注)当初の施策（事業）名は「(仮称)療育センターの整備」

施策（事業）名	障がい児通園施設利用者負担軽減事業	□ 新規 ・ ■ 継続
計画期間	2006年度(平成18年度)～2011年度(平成23年度)	決算額 4,919千円

1 2010年度（平成22年度）に取り組んだこと

障がい児に対する早期療育を促進するため、市独自で利用者の負担軽減を行いました。

○食費負担軽減事業

障がい児通園施設を利用している児童の食費について、施設が負担の軽減を行った場合に、施設の設置者に対して、その費用の一部を助成しました。（食費軽減）

- ・5施設 49人に助成（1食 420円限度）

○施設利用料軽減事業

- ・保育所などと併行して通園する場合

障がい児通園施設と保育所又は幼稚園を併せて利用する場合に利用者負担額を助成しました。（併行通園）

- ・兄弟が保育所などに入所している場合

障がい児通園施設を利用する児童に、保育所又は幼稚園に入所する兄弟がいる場合、利用者負担を保育料の制度に準じて軽減しました。（多子軽減）

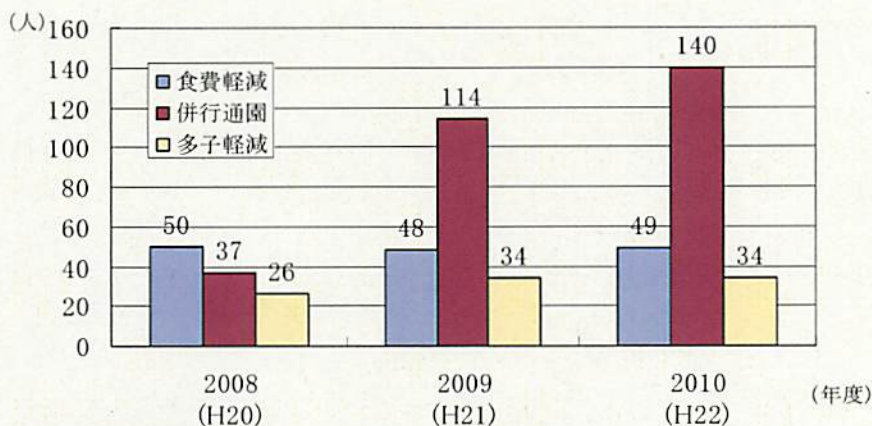


【第2こぼと園(児童デイサービス事業)】

2 成果と年度別事業費

○対象児童の家庭が施設を利用しやすいように、保護者負担を軽減し、早期の療育につなげました。

障がい児通園施設利用者負担軽減事業の対象者の状況



(単位：千円)

	2008年度 (平成20年度)	2009年度 (平成21年度)	2010年度 (平成22年度)
事業費	3,703	4,145	4,919

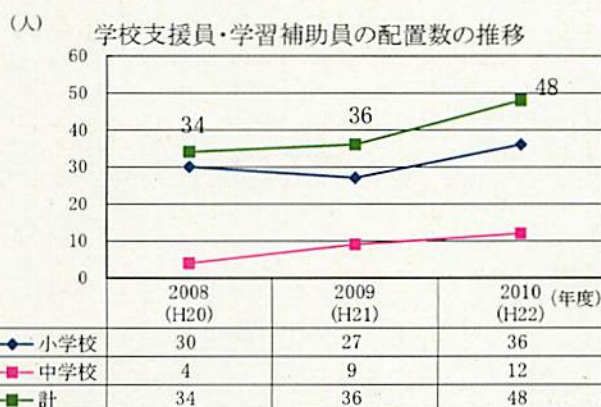
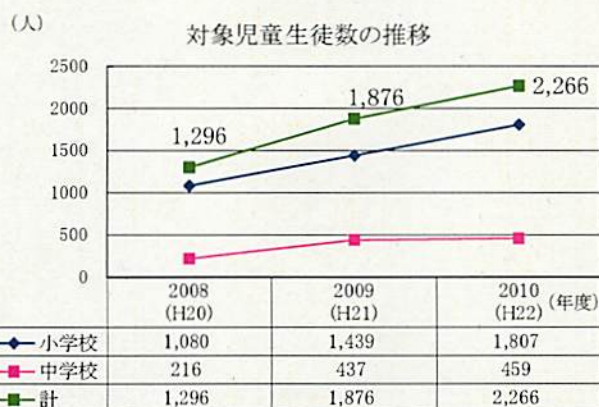
事業費は、「前年度からの繰越額」と「当年度決算額」の合計

施策（事業）名	特別支援教育体制推進事業(※再掲)	□ 新規 ・ ■ 継続
計画期間	2006年度(平成18年度)～2011年度(平成23年度)	決算額 84,320千円

1 2010年度（平成22年度）に取り組んだこと

○学校支援員の配置

通常学級において発達障がいのある児童生徒に対して指導や支援が必要であると教育委員会が認める学校（特別支援教育体制推進重点校）に「学校支援員・学習補助員」を配置しました。



※2010年度(平成22年度)はうち学習補助員が小学校10人、中学校3人、計13人

○巡回相談の実施

発達障がいなどの専門家による巡回相談を実施し、教職員の発達障がいに対する理解を深め、児童生徒に応じた指導の充実と学校体制での特別支援教育を推進しました。

	2008年度(平成20年度)	2009年度(平成21年度)	2010年度(平成22年度)
個別の教育支援計画作成校	67校	73校	84校
巡回相談事業実施延件数	90件	114件	115件

○サポーター事業の実施

大学生がサポーターとなって担任などの指示により、補助的な支援を行いました。

	2008年度(平成20年度)	2009年度(平成21年度)	2010年度(平成22年度)
学生サポーターの配置	小学校5校	小学校4校	小学校3校

2 成果と年度別事業費

○個別にかかわることで、児童生徒の心の安定が図られ、落ち着いて学校生活を送ることができるようになりました。

○巡回相談を活用した校内研修を実施することで、発達障がいの理解を深めることができました。

(単位：千円)

	2008年度 (平成20年度)	2009年度 (平成21年度)	2010年度 (平成22年度)
事業費	55,416	64,867	84,320

事業費は、「前年度からの繰越額」と「当年度決算額」の合計

施策（事業）名	「食育」の推進	□ 新規 ・ ■ 継続
計画期間	2007 年度(平成 19 年度)～	決算額 1,035 千円

1 2010年度（平成22年度）に取り組んだこと

○食育推進体制の確立

- ・ 保育所や小中学校における食に関する年間指導計画の作成
- ・ 食育講演会の開催（3月6日）

テーマ：食育のすすめ

～人にも地球にもやさしい地産地消～

参加者数：719人



【保育所での食育】

五感を養うためのクッキング活動

○学校、保育所、地域における地産地消の推進

（学校給食）

- ・ J A福山市を通じた、地域の生産者からの直接搬入の拡大
- ・ くわいなど郷土の特産物を使用したものや郷土料理（うずみ・鯛めし・くわいのからあげなど）の採用（※再掲）

（保育所給食）

- ・ 市内産の米や野菜の使用，郷土料理（うずみ・鯛そうめん・くわいのからあげ・かぼちゃ汁など）の採用



【食育の日の活動】

地元農林水産物を使用した試食会

○「食育の日」（毎月19日）の活動

- ・ 市内産農林水産物を使用した試食品とそのレシピを各市民センターや健康ふくやま21フェスティバル会場などで配布し、朝食の大切さや地産地消を啓発しました。

○朝食キャンペーンの推進

- ・ 小学校と幼稚園で夏休み子ども料理教室を実施し，規則正しい食生活を推進しました。

2010年度（平成22年度）：小学校78校（対前年度21校増），幼稚園10園（新規）



【夏休み子ども料理教室】

2 成果と年度別事業費

- 小学校6年生の朝食摂食率が，前年度比0.9%増の97.4%に向上しました。

（単位：千円）

	2008年度 (平成20年度)	2009年度 (平成21年度)	2010年度 (平成22年度)
事業費	837	381	1,035

事業費は、「前年度からの繰越額」と「当年度決算額」の合計

施策（事業）名	病院施設整備事業	□ 新規 ・ ■ 継続
計画期間	2008年度(平成20年度)～2013年度(平成25年度)	決算額 330,536千円

1 2010年度（平成22年度）に取り組んだこと

○病院増築事業

病棟や外来化学療法室，内視鏡室，手術室の拡充などに向け，実施設計を行いました。

・実施設計 2010年（平成22年）7月～2011年（平成23年）2月



【増築棟完成予想図】

○立体駐車場新築事業

立体駐車場を新築し，約250台の駐車スペースを確保しました。

・新築工事 2010年（平成22年）8月～2011年（平成23年）3月



【福山市民病院立体駐車場】

2 成果と年度別事業費

患者数や手術件数が増加傾向にある中，県知事から106床の増床許可が得られるなど，救急医療・がん医療を柱に地域で完結する医療提供体制の構築に向け一層の機能充実に取り組みました。

(単位:千円)

	2008年度 (平成20年度)	2009年度 (平成21年度)	2010年度 (平成22年度)
事業費	-	21,312	330,536

事業費は，「前年度からの繰越額」と「当年度決算額」の合計

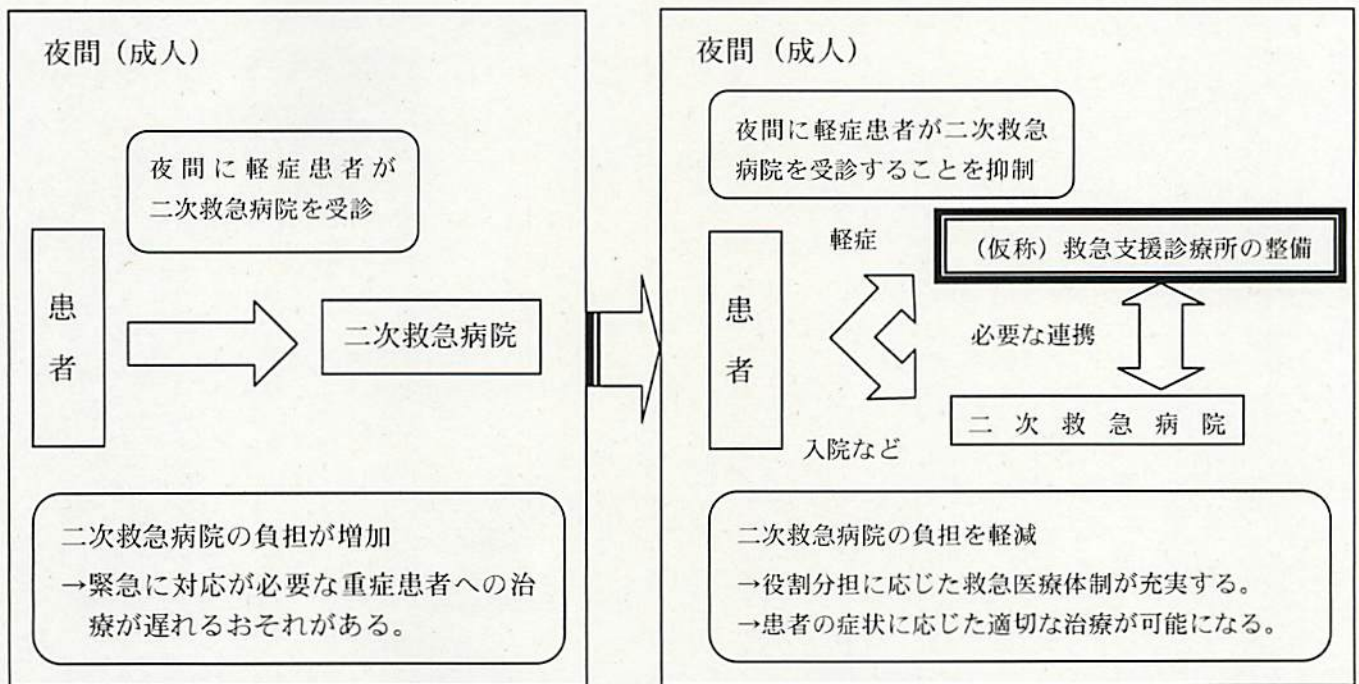
施策（事業）名	(仮称)救急支援診療所整備事業	■ 新規 ・ □ 継続
計画期間	2010年度(平成22年度)～2013年度(平成25年度)	決算額 ー 千円

1 2010年度（平成22年度）に取り組んだこと

重症患者のための二次救急病院へ、軽症患者が多数受診している現状を踏まえ、夜間における一次救急患者の受入れ体制の充実に向け、医師会代表者や行政機関で構成する連絡調整会議を設置し、「(仮称) 福山・府中地域救急支援診療所」の整備について検討を行いました。

【現状】（二次救急病院の負担増）

【対策後】（二次救急病院の負担軽減）



- ・一次救急病院…比較的軽症で入院や手術の必要がない患者を受け入れる病院
- ・二次救急病院…入院や手術が必要な重症患者を受け入れる病院

2 年度別事業費

(単位：千円)

	2008年度 (平成20年度)	2009年度 (平成21年度)	2010年度 (平成22年度)
事業費	-	-	-

事業費は、「前年度からの繰越額」と「当年度決算額」の合計

施策（事業）名	消防・救急体制の整備	□ 新規 ・ ■ 継続
計画期間	2005 年度(平成 17 年度)～	決算額 4 7 2, 6 1 3 千円

1 2010 年度（平成 22 年度）に取り組んだこと

○芦品消防署改築

北部地域の防災拠点としての機能を備えた庁舎の建設を行いました。

（建物概要）

- 構造：鉄筋コンクリート造 4 階建
- 延べ面積：1,488.29 m²
- 1 階 消防車庫，救急処置室
- 2 階 救急隊仮眠室
- 3 階 消防隊仮眠室
- 4 階 事務室，講堂兼屋内訓練場



【芦品消防署新庁舎】

○常備用消防自動車等整備

北消防署駅家分署のはしご付消防ポンプ自動車を更新しました。

24m級→30m級（最新鋭）

（主要装置の特長）

水路管

- ・高圧放水（毎分 2,000 リットル）
- ・はしご操作機能（放水しながら，旋回・伸縮が可能）

先端屈折機能 … 梯体の先端が屈折する

- ・バスケットへの乗り込みが容易
- ・電線やフェンスなどの障害物を乗り越えることが可能



【はしご付消防ポンプ自動車】

2 成果と年度別事業費

- 消防庁舎の耐震化を含め芦品消防署の庁舎改築を行いました。
- 北消防署駅家分署のはしご付消防ポンプ自動車を更新することで，スピーディーな消火活動が可能になり，救助活動範囲が大幅に拡大しました。

（単位：千円）

	2008年度 (平成20年度)	2009年度 (平成21年度)	2010年度 (平成22年度)
事業費	1,166,877	241,019	472,613

事業費は、「前年度からの繰越額」と「当年度決算額」の合計

施策（事業）名	水道施設の耐震化事業	□ 新規 ・ ■ 継続
計画期間	2007年度(平成19年度)～	決算額 232,038千円

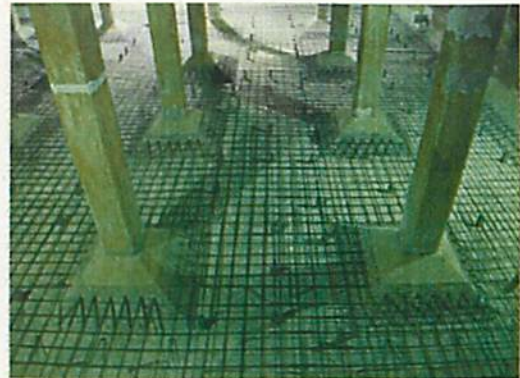
1 2010年度（平成22年度）に取り組んだこと

地震などの災害にも強い安定した水道の給水体制を確立するため、基幹水道管の耐震化を始め、水道施設の耐震化や耐震補強を計画的に進めました。

○木之庄配水池耐震補強工事

主要配水池*の一つである木之庄配水池（有効容量 13,190 m³）の耐震補強を2か年で行うもので、2010年度（平成22年度）は配水池耐震補強工事や場内配管工事を行いました。

※配水池…浄水場から送り出された水を各家庭に配水する前に、一時的に貯めておく施設のこと。



【配水池内の補強工事】

○基幹管路の布設替え（久松台ほか）

木之庄配水池からの配水管（口径 800 mm，布設延長約 1.2 km）の布設工事を行いました。

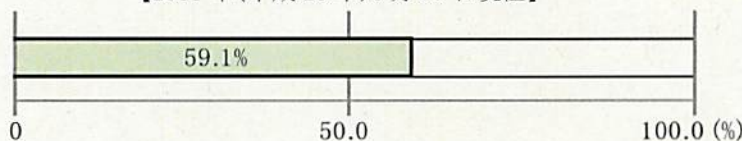
配水管は、地震など災害に強い耐震管を採用しています。



【配水管布設工事(久松台)】

2 成果と年度別事業費

耐震管を使っている割合（基幹管路）
【2011年(平成23年)3月31日現在】



(単位：千円)

	2008年度 (平成20年度)	2009年度 (平成21年度)	2010年度 (平成22年度)
事業費	10,710	176,821	232,038

事業費は、「前年度からの繰越額」と「当年度決算額」の合計

施策（事業）名	小・中学校の耐震補強等整備事業	□ 新規 ・ ■ 継続
計画期間	2006年度(平成18年度)～	決算額 1,313,265千円

1 2010年度(平成22年度)に取り組んだこと

災害時に児童生徒の生命を守るとともに、地域住民の緊急避難場所としての役割が果たせるよう、耐震補強などを行いました。

○屋内運動場整備事業

耐震化を進めるため、改修工事、耐震改修設計を実施しました。

- ・小学校 改修5校（樹徳小，瀬戸小，走島小，松永小，緑丘小）
設計5校（駅家小，服部小，新市小，山南小，神辺小）
- ・中学校 改修2校（幸千中，鞆中）
設計2校（城南中，新市中央中）



【瀬戸小学校屋内運動場改修】

○校舎改修事業

耐震化を進めるため、改修工事、耐震補強設計などを実施しました。

- ・小学校 改修2棟
 - ・光小（南棟），今津小（南棟）
 耐震補強設計など 18棟
- ・中学校 改修3棟
 - ・大成館中（北棟）
 - ・中央中（特別教室棟）
 - ・加茂中（校舎棟）
 耐震補強設計など 11棟

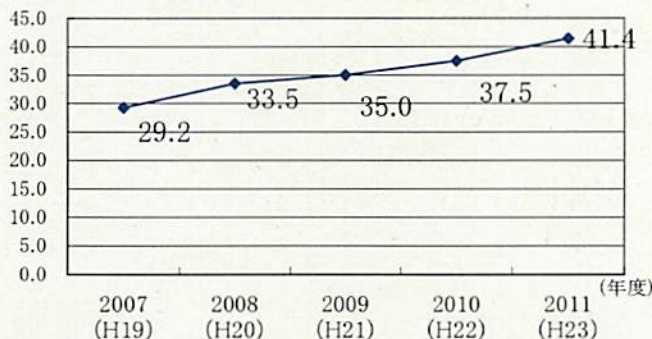


【今津小学校南棟耐震補強工事】

2 成果と年度別事業費

○小中学校の屋内運動場や校舎の耐震化率が向上しました。

(%) 小中学校の耐震化率



(単位：千円)

	2008年度 (平成20年度)	2009年度 (平成21年度)	2010年度 (平成22年度)
事業費	622,474	867,330	1,313,265

事業費は、「前年度からの繰越額」と「当年度決算額」の合計

施策（事業）名	災害時要援護者の避難支援対策	□ 新規 ・ ■ 継続
計画期間	2009年度(平成21年度)～	決算額 1,006千円

1 2010年度(平成22年度)に取り組んだこと

地域における災害時要援護者の避難支援体制の確立に向けた活動を推進・支援しました。

○地域防災活動の支援

地域の防災力を高めるため、出前講座の実施や防災訓練実施のための物資提供などを通じ、地域防災活動を支援しました。

- ・出前講座「地域における災害時要援護者の避難支援」

開催回数 36回 受講者数 約1,800人



○災害時要援護者の把握

行政が保有する情報を一元化するとともに、民生委員による調査を実施し、地域における災害時要援護者の把握を行いました。

- ・把握人数 13,142人

○災害時要援護者避難支援プランの作成

地域における災害時要援護者の避難体制の確立に向け、支援体制の整った学区へ、学区内の要援護者情報を申請に基づき提供しました。



【情報提供した学区での防災訓練】

2 成果と年度別事業費

- 個別の避難支援プランの作成が終了している学区数 9学区

- 災害時要援護者の情報を提供した学区数 27学区

(単位：千円)

	2008年度 (平成20年度)	2009年度 (平成21年度)	2010年度 (平成22年度)
事業費	-	2,754	1,006

事業費は、「前年度からの繰越額」と「当年度決算額」の合計

施策（事業）名	水道未普及地域解消事業	□ 新規 ・ ■ 継続
計画期間	2009年度(平成21年度)～2011年度(平成23年度)	決算額 66,908千円

1 2010年度（平成22年度）に取り組んだこと

神辺町三谷地区への水道未普及地域解消事業（3か年事業）の2年目にあたり、初年度に引き続いて水道管布設を行うとともに、加圧ポンプ所と配水池を築造しました。

※事業計画：計画給水量 29 m³/日、計画給水人口 129 人（43 戸）

○構築物の築造

- ・加圧ポンプ所……鉄筋コンクリート造 面積：21.25 m²
- ・配水池……鉄筋コンクリート造 有効容量：10 m³

○水道管の布設工事

昨年度に続き、送水管・配水管合わせて1,922.4mを布設しました。

- ・送水管布設工事（NS※ 口径75mm L=23.6m、PEP※ 口径75mm L=85.0m）
- ・配水管布設工事（PEP 口径75mm L=1,457.5m、口径50mm L=356.3m）

※NS：NS形ダクタイル^{ちゅうてつかん}鋳鉄管 PEP：水道配水用ポリエチレン管



【加圧ポンプ所】



【配水池】

2 成果と年度別事業費

2011年度（平成23年度）完成に向け、計画どおり事業を実施しました。

（単位：千円）

	2008年度 (平成20年度)	2009年度 (平成21年度)	2010年度 (平成22年度)
事業費	-	67,950	66,908

事業費は、「前年度からの繰越額」と「当年度決算額」の合計

施策（事業）名	出原浄水場更新事業	■ 新規 ・ □ 継続
計画期間	2010年度(平成22年度)～2015年度(平成27年度)	決算額 107,634千円

1 2010年度（平成22年度）に取り組んだこと

安心・安全な給水を図るため、老朽化が進んでいる出原浄水場更新事業（6か年計画の初年度）に着手しました。

○構築物の築造

・急速ろ過池築造工事（ろ過面積：30.4㎡×10池）

2010年度（平成22年度）～2011年度（平成23年度）の2か年の工事に着手しました。

○設計業務委託

管理棟設計業務，導水管設計業務，送水管基本・詳細設計業務委託を行いました。



【出原浄水場完成予想図】

2 成果と年度別事業費

2015年度（平成27年度）完成に向け，計画どおり事業を実施しました。

（単位：千円）

	2008年度 (平成20年度)	2009年度 (平成21年度)	2010年度 (平成22年度)
事業費	-	-	107,634

事業費は、「前年度からの繰越額」と「当年度決算額」の合計

施策（事業）名	子どもと地域の安心安全対策推進事業	□ 新規 ・ ■ 継続
計画期間	2006年度(平成18年度)～	決算額 4,413千円

1 2010年度（平成22年度）に取り組んだこと

○地域安全マップ普及推進事業

地域住民が福山大学の学生などと協力し、地域安全マップを作製しました。



【地域安全マップ作製セミナーの開催(参加者:38人)】

○こども110番事業

こども110番事業ネットワーク会議の開催やイベントでの事業の啓発活動に取り組みました。

○防犯カメラシステム設置事業

3基（東手城町・蔵王町・松永町）（累計）市内15基

○生活安全モデル地域（新涯・津之郷・駅家地区）の指定

モデル地域の活動状況を防犯リーダー研修会で報告し、他地域への活動の拡充に努めました。

○地域防犯活動における人材育成

地域防犯リーダー研修会を開催しました。（参加人数171人）



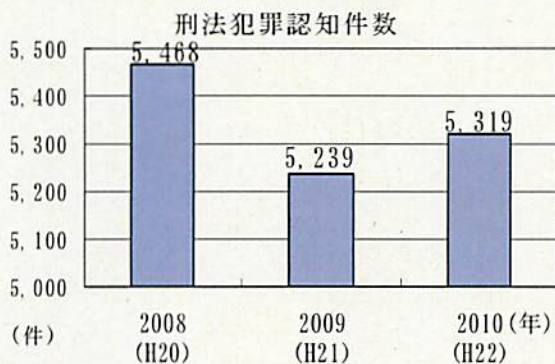
【ばら祭での啓発活動】

○地域青色防犯パトロール支援

青色回転灯、放送設備、マグネットを貸与しました。（市内9地区）

2 成果と年度別事業費

○地域安全マップを作成するなど、地域ぐるみで安心・安全なまちづくりが進められています。



(単位：千円)

	2008年度 (平成20年度)	2009年度 (平成21年度)	2010年度 (平成22年度)
事業費	6,124	4,187	4,413

事業費は、「前年度からの繰越額」と「当年度決算額」の合計

施策（事業）名	交通安全対策推進事業	<input type="checkbox"/> 新規 ・ <input checked="" type="checkbox"/> 継続
計画期間	2007年度(平成19年度)～	決算額 2,355千円

1 2010年度（平成22年度）に取り組んだこと

○交通安全教育推進モデル地区の取組

福山市交通安全教育推進モデル地区3地区（引野・水呑・道上）において、高齢者・子どもの交通事故防止に向け、住民、警察、交通安全協会などが連携して、高齢者等交通安全教室や啓発活動などの交通安全教育に取り組みました。



【交通安全教育推進モデル地区】

○自転車の交通事故防止・盗難防止啓発事業（自転車利用者対策事業）

市内の自転車利用者が多い場所を選定し、関係機関・団体と連携して指導・啓発活動を行いました。また、高校生への指導・啓発活動には、高校生自身が声かけをする側に参加し、活動の広がりと効果を高めました。（開催状況 市内10か所、年間5回）



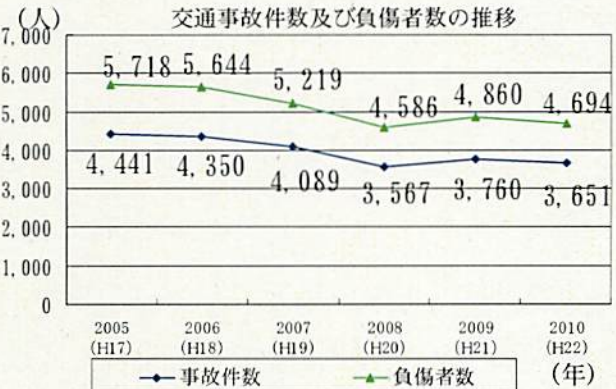
【自転車利用者対策事業】



【交通安全運動街頭キャンペーン】

2 成果と年度別事業費

○交通事故死者数、交通事故件数や交通事故負傷者数が減少傾向にあります。



(単位：千円)

	2008年度 (平成20年度)	2009年度 (平成21年度)	2010年度 (平成22年度)
事業費	193	272	2,355

事業費は、「前年度からの繰越額」と「当年度決算額」の合計

施策（事業）名	歩道整備事業	□ 新規 ・ ■ 継続
計画期間	2002年度(平成14年度)～2013年度(平成25年度)	決算額 225,756千円

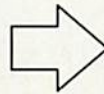
1 2010年度（平成22年度）に取り組んだこと

子どもや高齢者を始め、だれもが使いやすい安心・安全で快適な歩道整備に取り組みました。

御船三吉1号線



【整備前】



【整備後】

主な整備点：車道側に歩道を拡幅整備しました。

○東福山地区

交通安全施設整備工事

手城三吉線	歩道延べ延長	240m	歩道幅員	4.0m
手城蔵王線	歩道延べ延長	260m	歩道幅員	4.0m
停車場裏古地線	歩道延べ延長	280m	歩道幅員	4.0m

○福山駅周辺地区

交通安全施設整備工事

草戸松浜線	歩道延べ延長	380m	歩道幅員	4.0m
御船三吉1号線	歩道延べ延長	432m	歩道幅員	2.0～3.0m

2 年度別事業費

(単位：千円)

	2008年度 (平成20年度)	2009年度 (平成21年度)	2010年度 (平成22年度)
事業費	(97,760)	90,070 (※79,240)	225,756

事業費は、「前年度からの繰越額」と「当年度決算額」の合計

注)ただし、2009年度(平成21年度)決算額中の「90,070千円」には繰越分は含まれません。

「(79,240千円)」は前年度繰越分で、重点政策に計上していない年度のため、()で表示しています。

施策（事業）名	交通施設バリアフリー設備整備費補助等事業	<input type="checkbox"/> 新規 ・ <input checked="" type="checkbox"/> 継続
計画期間	2005年度(平成17年度)～平成20年代半ば	決算額 189,979千円

1 2010年度（平成22年度）に取り組んだこと

高齢者を始めとしたすべての鉄道利用者がより円滑に駅を利用することができるよう、鉄道事業者が実施したエレベーターの整備に対して支援を行いました。

- ・2010年度（平成22年度） JR東福山駅・松永駅ホーム用エレベーターの設置（各2基）

東福山駅



【ホーム側】



【改札側】

松永駅



【ホーム側】



【改札側】

2 成果と年度別事業費

JR東福山駅・松永駅のホームにエレベーターを設置したことにより、利用者の利便性・安全性が向上しました。

- ・東福山駅：2011年（平成23年）3月11日から供用開始
- ・松永駅：2011年（平成23年）3月15日から供用開始

（単位：千円）

	2008年度 (平成20年度)	2009年度 (平成21年度)	2010年度 (平成22年度)
事業費	82,118	62,379	189,979

事業費は、「前年度からの繰越額」と「当年度決算額」の合計

施策（事業）名	深津市営住宅整備事業	■ 新規 ・ □ 継続
計画期間	2008年度(平成20年度)～2015年度(平成27年度)	決算額 246,705千円

1 2010年度（平成22年度）に取り組んだこと

耐用年限を経過した老朽住宅等の建替えや外壁改修，また，福祉部門と連携したシルバーハウジング（高齢者世話付住宅）の整備など，安心して安全に暮らせる快適な住環境の整備に取り組んでいます。

- ・ 工期 2010年（平成22年）12月17日～2012年（平成24年）5月31日
- ・ 鉄筋コンクリート構造 7階建 89戸（うちシルバーハウジング30戸）
- ・ 高齢者生活相談所

- ・ 2010年（平成22年） 4月 深津市営住宅1号棟外の実施設計 深津市営住宅実施設計など
- 9月 耐用年限を経過した老朽住宅などの解体工事
老朽住宅解体事業（29戸）
- 12月 深津市営住宅1号棟建設工事着手



【深津市営住宅完成イメージ図】

2 年度別事業費

（単位：千円）

	2008年度 (平成20年度)	2009年度 (平成21年度)	2010年度 (平成22年度)
事業費	(3,400)	(40,478)	246,705

事業費は、「前年度からの繰越額」と「当年度決算額」の合計

施策（事業）名	人として大切にされる社会の実現	■ 新規 ・ □ 継続
計画期間	2010年度(平成22年度)～	決算額 2,463千円

1 2010年度（平成22年度）に取り組んだこと

今日大きな社会問題になっている、児童虐待防止、高齢者虐待防止、自殺対策に取り組みました。

①ネットワークによる支援

虐待防止のネットワーク会議や新たに設置した自殺対策の庁内連絡会議において、関係機関・団体間で問題に対する認識・目標・情報を共有し、効果的な支援を行いました。

②広報・啓発活動の実施

市民一人一人が虐待や自殺の問題について関心と理解を深めていただけるよう、講演会や街頭啓発、パネル展示、リーフレットの配布などを行いました。

③研修会の実施

関係機関・団体の職員の資質向上のため、研修会を実施しました。



【児童虐待防止「オレンジリボン装飾」】



【自殺対策講演会】



【街頭啓発】



【イベントでのパネル展示】

2 成果と年度別事業費

○啓発活動や講演会などの実施により、市民一人一人の虐待防止への認識が高まりつつあります。

○遺族が悲しみと向き合い、互いにわかち合える場として、新たに自死遺族支援に取り組みました。

(虐待として対応した件数)

(単位：件)

	2008年度 (平成20年度)	2009年度 (平成21年度)	2010年度 (平成22年度)
児童虐待	112	122	215
高齢者虐待	93	61	65

(単位：千円)

	2008年度 (平成20年度)	2009年度 (平成21年度)	2010年度 (平成22年度)
事業費	676	1,152	2,463

事業費は、「前年度からの繰越額」と「当年度決算額」の合計

注) 2008年度(平成20年度)、2009年度(平成21年度)は、「児童虐待防止事業」「高齢者虐待防止事業」の事業費の計